

【表紙】

| | |
|------------|--------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 2018年9月25日提出 |
| 【計算期間】 | 第17期(自 2017年6月27日至 2018年6月25日) |
| 【ファンド名】 | 年金積立 J グロース |
| 【発行者名】 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 柴田 拓美 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 新屋敷 昇 |
| 【連絡場所】 | 東京都港区赤坂九丁目7番1号 |
| 【電話番号】 | 03-6447-6147 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

主に、成長性が高く株主への利益還元が期待できる企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざします。

ファンドの基本的性格

1) 商品分類

| 単位型投信・追加型投信 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) |
|-------------|--------|----------------------|
| 単位型投信 | 国内 | 株式 |
| | 海外 | 債券 不動産投信 |
| 追加型投信 | 国内外 | その他資産 () 資産複合 |

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

追加型投信

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

国内

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

株式

目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

2) 属性区分

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 投資形態 |
|-------------------------|------------|-------------|--------------|
| 株式 一般 | 年1回 | グローバル | |
| 大型株 中小型株 | 年2回 | 日本 | |
| | 年4回 | 北米 | |
| 債券 | | | ファミリーファンド |
| 一般 | 年6回 | 欧州 | |
| 公債 | (隔月) | | |
| 社債 | | アジア | |
| その他債券 | 年12回 | | |
| クレジット属性 () | (毎月) | オセアニア | |
| | 日々 | 中南米 | |
| 不動産投信 | | | ファンド・オブ・ファンズ |
| | その他 () | アフリカ | |
| その他資産 (投資信託証券(株式一般)) | | 中近東 (中東) | |
| 資産複合 () | | エマージング | |
| 資産配分固定型 資産配分変更型 | | | |

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

その他資産（投資信託証券（株式 一般））

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、株式に投資を行いません。よって、商品分類の「投資対象資産（収益の源泉）」においては、「株式」に分類されます。

年1回

目論見書または投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。

日本

目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファミリーファンド

目論見書または投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。

上記は、一般社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づき記載しています。

上記以外の商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご参照ください。

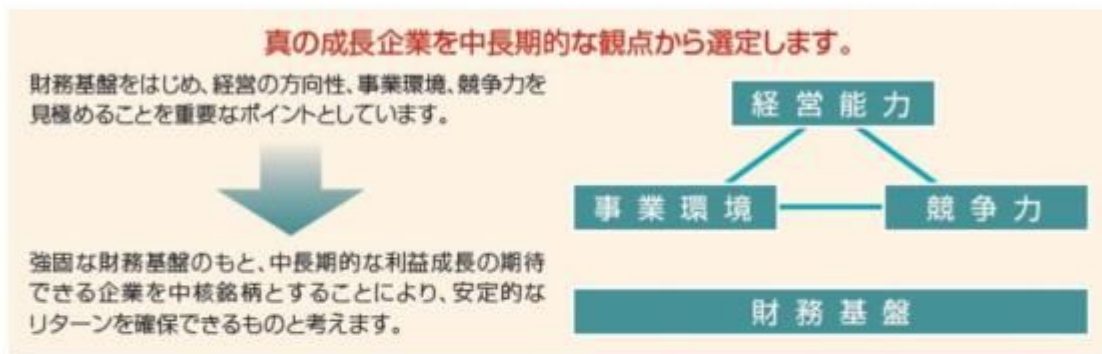
ファンドの特色

1 成長性が高く、株主への利益還元が期待できる株式に投資します。

- ◆ TOPIX(東証株価指数)の動きを上回る投資成果の獲得をめざします。
- ◆ 今後の成長が期待できる企業、自己資本利益率が高い企業、株主への利益還元が期待できる企業を厳選し投資します。

2 徹底したボトムアップ・リサーチで、勝ち組成長企業の選定を行ないます。

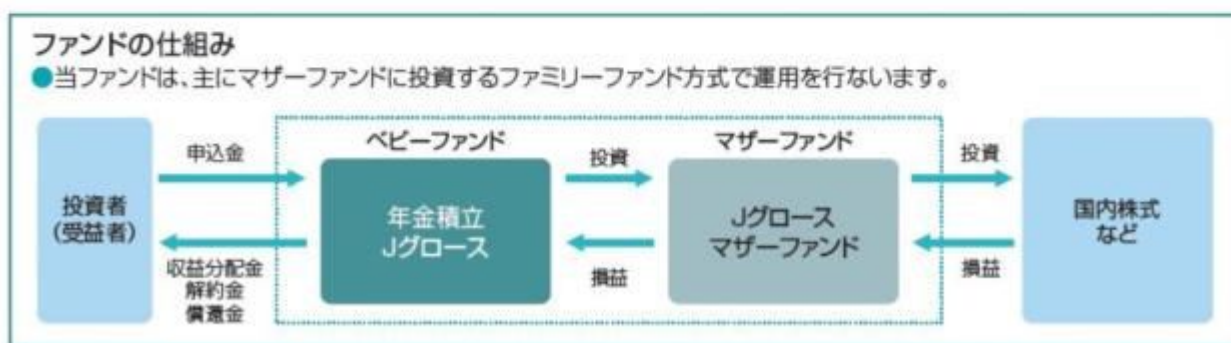
- ◆ ファンドマネージャーと豊富な陣容を誇る社内の企業アナリストが、直接企業を訪問し収集した情報・データをもとに投資銘柄を厳選します。



3 株式の実質組入比率は、基本的に高位を維持します。

- ◆ 株式の実質組入比率(マザーファンドにおいて保有する株式を含みます。)は基本的に高位を維持し、積極的に投資します。

○市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。



(主な投資制限) ・株式への実質投資割合には制限を設けません。
 ・外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の総額の50%以下とします。

(分配方針) ・毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

信託金限度額

- ・3,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

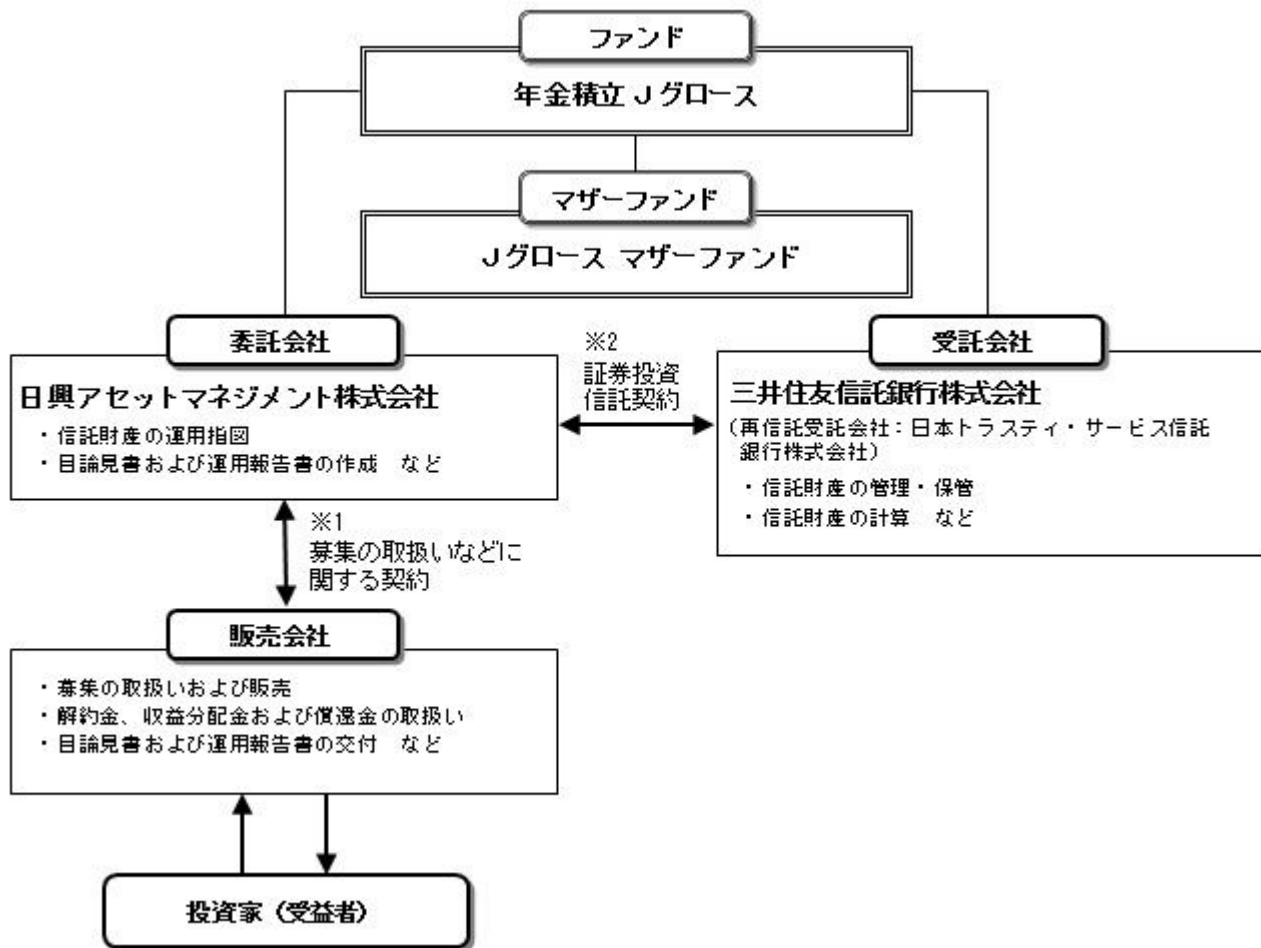
(2) 【ファンドの沿革】

2001年10月31日

- ・ファンドの信託契約締結、当初自己設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



- 1 投資信託を販売するルールを委託会社と販売会社の間で規定したものです。販売会社が行なう募集の取扱い、収益分配金・償還金の支払い、解約請求の受付の業務範囲の取決めの内容などが含まれています。
- 2 投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社の間で規定したものです。運用の基本方針、投資対象、投資制限、信託報酬、受益者の権利、募集方法の取決めの内容などが含まれています。

委託会社の概況（2018年6月末現在）

- 1) 資本金
17,363百万円
- 2) 沿革
1959年：日興証券投資信託委託株式会社として設立
1999年：日興国際投資顧問株式会社と合併し「日興アセットマネジメント株式会社」に社名変更
- 3) 大株主の状況

| 名称 | 住所 | 所有株数 | 所有比率 |
|---------------|---|--------------|--------|
| 三井住友信託銀行株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 | 179,869,100株 | 91.29% |
| DBS Bank Ltd. | 6 Shenton Way, #46-00, DBS Building Tower One, Singapore 068809 | 14,283,400株 | 7.24% |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

- ・主として、「Jグロース マザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。
- ・マザーファンド受益証券の組入比率は高位を保つことを原則とします。ただし、資金動向などによっては組入比率を引き下げることもあります。
- ・また、市況動向によっては有価証券などへの直接投資を行なうこともあります。
- ・株式以外の資産への実質投資割合（マザーファンドの信託財産に属する株式以外の資産のうち、この投

資信託の信託財産に属するとみなした割合を含みます。)は、原則として、信託財産の総額の50%以下とします。

- ・ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

<年金積立「Jグロース」>

「Jグロース マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。

投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 有価証券
- 2) デリバティブ取引に係る権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第20条、第21条および第22条に定めるものに限ります。)
- 3) 金銭債権
- 4) 約束手形
- 5) 為替手形
主として「Jグロース マザーファンド」受益証券ならびに次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することができます。
 - 1) 株券または新株引受権証書
 - 2) 国債証券
 - 3) 地方債証券
 - 4) 特別の法律により法人の発行する債券
 - 5) 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
 - 6) 特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
 - 7) コマーシャル・ペーパー
 - 8) 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。))および新株予約権証券
 - 9) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1)~8)の証券または証書の性質を有するもの
 - 10) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいい、マザーファンドの受益証券を除きます。)
 - 11) 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下同じ。))で12)に定めるもの以外のもの
 - 12) 投資法人債券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下同じ。))または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
 - 13) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
 - 14) オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
 - 15) 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
 - 16) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 - 17) 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
 - 18) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
 - 19) 外国の者に対する権利で18)の有価証券の性質を有するもの
次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。))により運用することができます。
 - 1) 預金
 - 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
 - 3) コール・ローン

- 4) 手形割引市場において売買される手形
- 5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6) 外国の者に対する権利で5)の権利の性質を有するもの
次の取引ができます。

- 1) 信用取引
- 2) 先物取引等
- 3) スワップ取引
- 4) 金利先渡取引
- 5) 為替先渡取引
- 6) 有価証券の貸付
- 7) 公社債の空売
- 8) 公社債の借入
- 9) 外国為替予約取引
- 10) 資金の借入

< J グロース マザーファンド >

わが国の金融商品取引所上場株式（これに準ずるものを含みます。）を主要投資対象とします。

投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 有価証券
- 2) デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第18条および第19条に定めるものに限りません。）
- 3) 金銭債権
- 4) 約束手形
- 5) 為替手形

主として次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することができます。

- 1) 株券または新株引受権証券
- 2) 国債証券
- 3) 地方債証券
- 4) 特別の法律により法人の発行する債券
- 5) 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 6) 特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- 7) コマーシャル・ペーパー
- 8) 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- 9) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1)～8)の証券または証書の性質を有するもの
- 10) 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- 11) 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下同じ。）で12)に定めるもの以外のもの
- 12) 投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下同じ。）または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
- 13) 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- 14) オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。）
- 15) 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- 16) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 17) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
- 18) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- 19) 外国の者に対する権利で18)の有価証券の性質を有するもの

次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することができます。

- 1) 預金
 - 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
 - 3) コール・ローン
 - 4) 手形割引市場において売買される手形
 - 5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 - 6) 外国の者に対する権利で5)の権利の性質を有するもの
- 次の取引ができます。

- 1) 信用取引
- 2) 先物取引等
- 3) スワップ取引
- 4) 有価証券の貸付
- 5) 外国為替予約取引

投資対象とするマザーファンドの概要

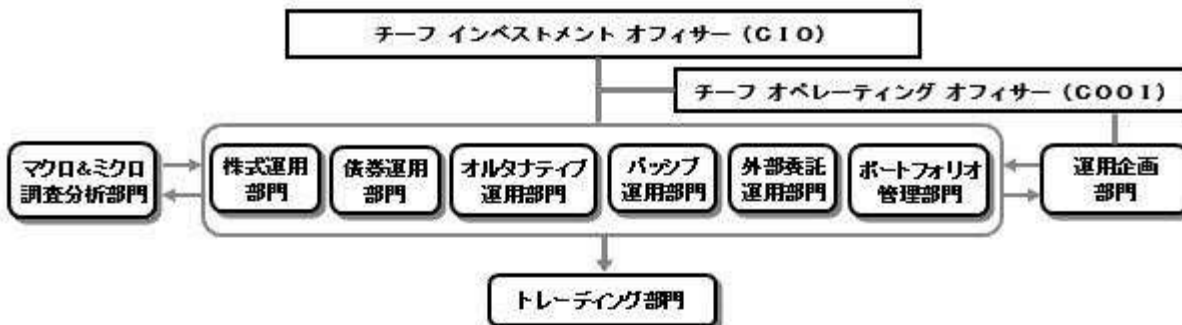
< J グロース マザーファンド >

| 運用の基本方針 | |
|---------|---|
| 基本方針 | 信託財産の成長をはかることを目標として運用を行いません。 |
| 主な投資対象 | わが国の金融商品取引所上場株式(これに準ずるものを含みます。)を主要投資対象とします。 |
| 投資方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式への投資は原則として、株主還元が期待できる企業、株主資本の成長率が高い企業などの株式に投資を行ない、売買益の獲得をめざします。 ・ 株式以外の資産への投資割合は、原則として、信託財産の総額の50%以下とします。 ・ ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。 |

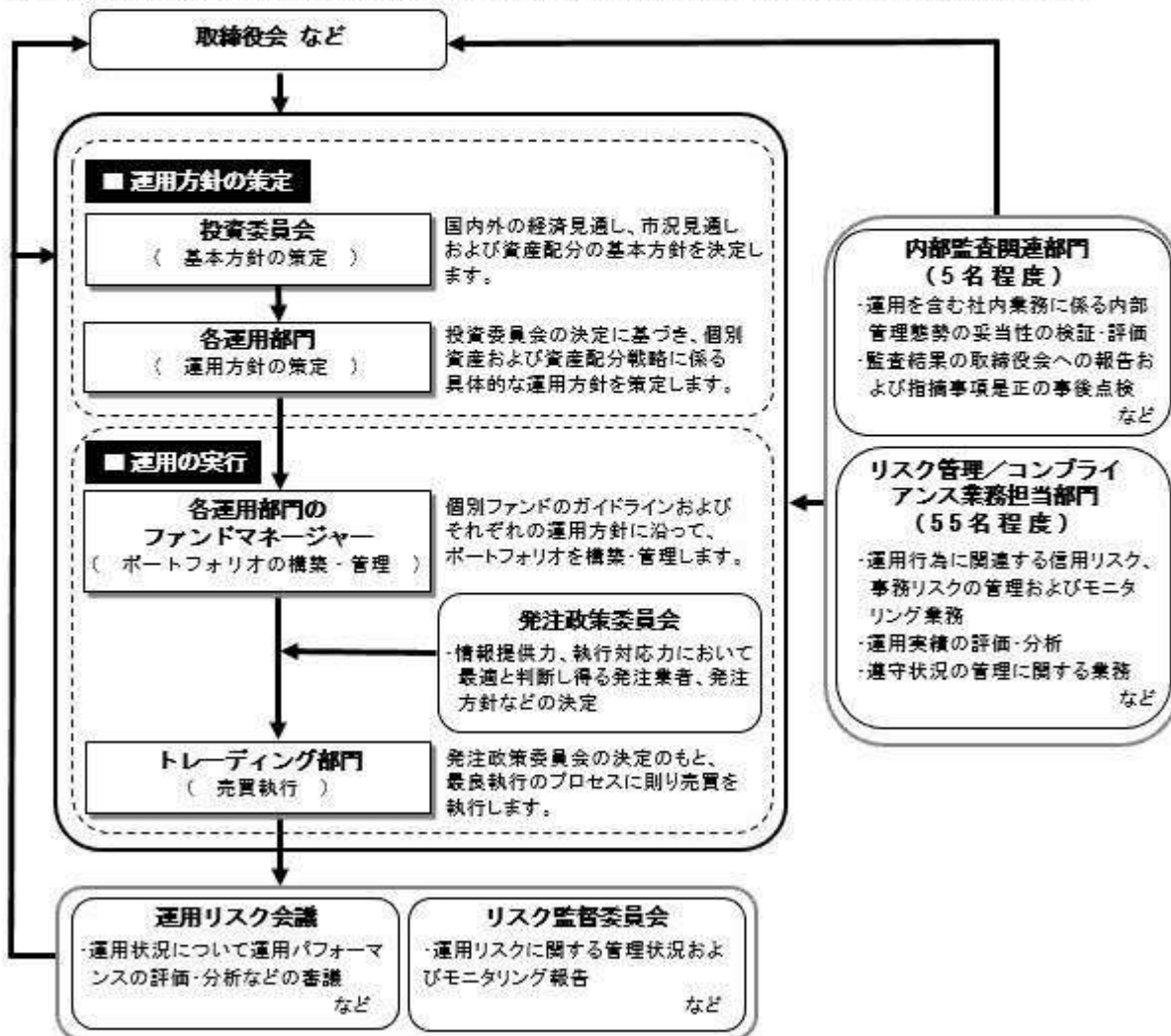
| | |
|------------------|--|
| 主な投資制限 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。 ・ 同一銘柄の株式への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・ 投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ・ 新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。 ・ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ・ 同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含みます。）への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・ 外貨建資産への投資は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。 ・ デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。 ・ 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。 |
| 収益分配 | 収益分配は行ないません。 |
| ファンドに係る費用 | |
| 信託報酬 | ありません。 |
| 申込手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |
| その他の費用など | <p>組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税など。</p> <p>上記費用に付随する消費税等相当額を含みます。</p> |
| その他 | |
| 委託会社 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 信託期間 | 無期限（2001年10月26日設定） |
| 決算日 | 毎年6月25日（休業日の場合は翌営業日） |

(3) 【運用体制】

◆委託会社における運用体制は以下の通りです。



◆委託会社の運用体制における内部管理および意思決定を監督する組織などは以下の通りです。



委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

「受託会社」に対しては、日々の純資産照会、月次の勘定残高照会などを行っております。また、独立した監査法人が所定の手続きで受託業務について監査を行っており、内部統制が有効に機能している旨の監査報告書を定期的に受け取っております。

上記体制は2018年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（４）【配分方針】

収益配分方針

毎決算時に、原則として次の通り収益分配を行なう方針です。

１）分配対象額の範囲

経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）などの全額とします。

２）分配対象額についての配分方針

分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

3) 留保益の運用方針

収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、約款に定める運用の基本方針に基づき運用を行いません。

収益分配金の支払い

< 分配金再投資コース >

原則として、収益分配金は無手数料で自動的に再投資されます。

< 分配金受取りコース >

毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日まで)から収益分配金を支払います。支払いは販売会社において行なわれます。

(5) 【投資制限】

約款に定める投資制限

< 年金積立 J グロース >

- 1) 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への実質投資割合には、制限を設けません。
- 2) 投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所が開設する市場に上場(金融商品取引所が開設する市場に準ずる市場等において取引されている場合を含みます。以下同じ。)されている株式等の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。また、上場予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場されることが確認できるものについては、投資することを指図することができます。
- 3) 投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の総額の5%以下とします。
- 4) 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の総額の50%以下とします。
- 5) 信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。信用取引の指図は、当該売り付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- 6) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避する目的のため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めるものとします。
- 7) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避する目的のため、わが国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の金融商品取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行なうことの指図をすることができます。
- 8) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避する目的のため、わが国の金融商品取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。
- 9) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避する目的のため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行なうことの指図をすることができます。スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- 10) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避する目的のため、金利先渡取引および為替先渡取引を行なうことの指図をすることができます。金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として、当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託

期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

- 11) 信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - イ) 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 - ロ) 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
 - 12) 信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売り付けることの指図をすることができます。当該公社債の売付けの指図は、当該売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 - 13) 信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。公社債の借入れの指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 - 14) 信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。
 - 15) 信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、解約に伴う支払資金の手当て(解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。)を目的として、および再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。資金借入額および借入期間は、次に掲げる要件を満たす範囲内とします。
 - イ) 解約に伴う支払資金の手当てにあたっては、解約金の支払資金の手当てのために行なった有価証券等の売却または解約等ならびに有価証券等の償還による受取りの確定している資金の額の範囲内
 - ロ) 再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てにあたっては、収益分配金の再投資額の範囲内
 - ハ) 借入指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%以内
 - ニ) 解約に伴う支払資金の手当てのための借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とします。
 - ホ) 再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てのための借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとします。
- 16) デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。
 - 17) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

< J グロース マザーファンド >

- 1) 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合には制限を設けません。
- 2) 同一銘柄の株式への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- 3) 投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所が開設する市場に上場(金融商品取引所が開設する市場に準ずる市場等において取引されている場合を含みます。以下同じ。)されている株式等の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。また、上場予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場されることが確認できるものについては、投資することを指図することができるものとします。
- 4) 投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- 5) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。
- 6) 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

- 7) 同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含みます。)への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- 8) 外貨建資産への投資は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
- 9) 信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
- イ) 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券
- ロ) 株式分割により取得する株券
- ハ) 有償増資により取得する株券
- ニ) 売り出しにより取得する株券
- ホ) 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含みます。))の新株予約権に限ります。)の行使により取得可能な株券
- ヘ) 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権行使ならびに信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債の新株予約権(ホ)に定めるものを除きます。)の行使により取得可能な株券
- 10) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避する目的のため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取り扱うものとします。
- イ) 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
- ロ) 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額)に信託財産が限月までに受け取る組入公社債および組入外国貸付債権信託受益証券ならびに組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、且つ信託財産が限月までに受け取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに約款第13条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
- ハ) コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、約款で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- 11) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避する目的のため、わが国の金融商品取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の金融商品取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。
- イ) 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合わせてヘッジ対象とする外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます。))、預金その他の資産をいいます。以下同じ。)の時価総額の範囲内とします。
- ロ) 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合わせて、外貨建有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。
- ハ) コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つ約款で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- 12) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避する目的のため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプシ

ン取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。

イ) 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受け取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに約款第13条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用されるものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。

ロ) 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受け取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに約款第13条第2項第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額(以下「金融商品運用額等」といいます。)の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建て、信託財産の外貨建資産組入可能額(約款上の組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差し引いた額。以下同じ。)に信託財産が限月までに受け取る外貨建組入公社債および組入外国貸付債権信託受益証券ならびに外貨建組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等の額より少ない場合には外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受け取る外貨建組入有価証券にかかる利払金および償還金を加えた額を限度とします。

ハ) コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つ約款で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

13) 投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに信託財産に属する資産の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避する目的のため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行なうことの指図をすることができます。スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則としてマザーファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。また、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

14) 信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。

イ) 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

ロ) 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

15) 信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

16) デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。

17) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうものとします。

法令による投資制限

同一法人の発行する株式(投資信託及び投資法人に関する法律)

同一法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行なう投資信託全体で、当該株式の議決権の過半数を保有することとなる取引は行ないません。

3【投資リスク】

(1) ファンドのリスク

当ファンドの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴いません。お申込みの際は、当ファンドのリスクを十分に認識・検討し、慎重に投資のご判断を行なっていただく必要があります。

・ 投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資

元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

- ・当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

当ファンドの主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

一般に株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

- ・一般に投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、金融商品取引所が定める一定の基準に該当した場合、上場が廃止される可能性があり、廃止される恐れや廃止となる場合も発行体の株式などの価格は下がり、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・ファンドの資金をコール・ローン、譲渡性預金証書などの短期金融資産で運用することがありますが、買付け相手先の債務不履行により損失が発生することがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

<その他の留意事項>

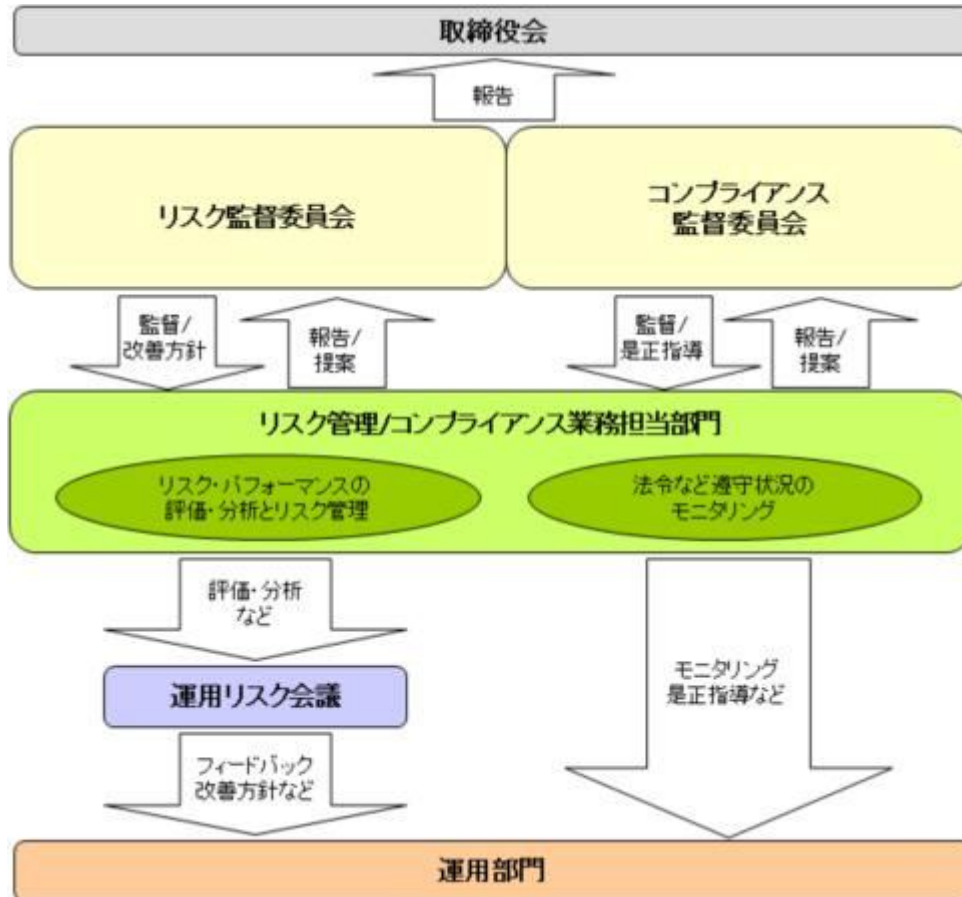
- ・システムリスク・市場リスクなどに関する事項
証券市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により有価証券取引や為替取引などが一時的に停止されることがあります。これにより、ファンドの投資方針に従った運用ができない場合があります。上記の状況が発生した場合や、その他の事由により基準価額の算出が困難となる状況が発生した場合などには、委託会社の判断により一時的に取得・換金の取り扱いを停止することもあります。
- ・投資対象とする投資信託証券に関する事項
ファンドが投資対象とする投資信託証券（マザーファンドを含みます。）と同じ投資信託証券に投資する他のファンドにおいて、解約・償還・設定などに伴う資金流出などがあり、その結果、当該投資信託証券において有価証券の売買などが生じた場合には、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。
- ・解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動に関する事項
一度に大量の解約があった場合に、解約資金の手当てをするため保有している有価証券を一度に大量に売却することがあります。その際は評価価格と実際の取引価格に差が生じるなどして、ファンドの基準価額が大きく変動する可能性があります。
- ・基準価額の妥当性に疑義が生じた場合の取得・換金の停止に関する事項
ファンドの基準価額の算出に用いた評価価格と実際の取引価格に差が生じるなど、基準価額の妥当性に疑義が生じる場合は、委託会社の判断により、一時的に取得・換金の取扱いを停止する場合があります。
- ・運用制限や規制上の制限に関する事項

関係する法令規制上、または社内方針などにより取引が制限されることがあります。例えば、委託会社またはその関連会社が特定の銘柄の未公開情報を受領している場合には、当該銘柄の売買が制限されることがあります。また、委託会社またはその関連会社が行なう投資または他の運用業務に関連して、取引が制限されることもあります。したがって、これらの制限により当ファンドの運用実績に影響を及ぼす可能性があります。

・法令・税制・会計方針などの変更に関する事項

ファンドに適用される法令・税制・会計方針などは、今後変更される場合があります。

(2) リスク管理体制



全社的なリスク管理

当社では運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理/コンプライアンス業務担当部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。当社グループの法令などの遵守状況についてはコンプライアンス部門が事務局を務めるコンプライアンス監督委員会、リスク管理状況についてはリスク管理部門が事務局を務めるリスク監督委員会を通して経営陣に報告され、更に年一度以上取締役会に対して全体的な活動状況を報告しております。両委員会およびそれに関連する部門別会議においては、法令遵守状況や各種リスク（運用リスク、事務リスク、システムリスクなど）に関するモニタリングとその報告に加えて、重要事故への対応と各種リスク対応、事故防止のための施策やその管理手法の構築などの支援に努めております。

運用状況の評価・分析および運用リスク管理

ファンド財産について運用状況の評価・分析および運用リスクの管理状況をモニタリングします。運用パフォーマンスおよび運用リスクに係る評価と分析の結果については運用リスク会議に報告し、運用リスクの管理状況についてはリスク監督委員会へ報告され、問題点の原因の究明や改善策の策定が図られます。加えて外部委託運用部門は、外部委託ファンドの運用管理を行ない、投資方針に沿った運用が行なわれているかなどのモニタリングを行なっています。

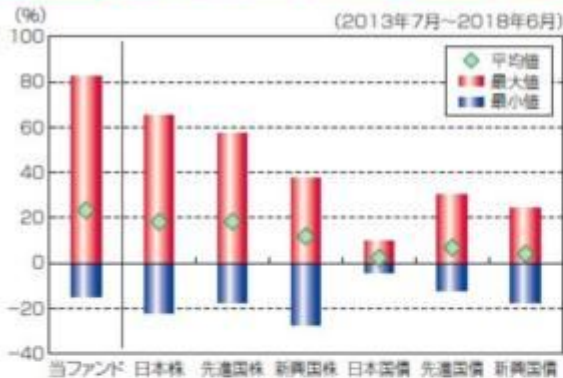
法令など遵守状況のモニタリング

運用における法令・諸規則、信託約款などの遵守状況については、コンプライアンス業務担当部門が管理を行ないます。問題点についてはコンプライアンス関連の委員会に報告され、必要に応じ運用部門に対し是正指導が行なわれるなど、適切に管理・監督を行ないます。

上記体制は2018年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

（参考情報）

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率および最小騰落率(%)）

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 平均値 | 23.2% | 18.1% | 18.2% | 11.7% | 2.2% | 6.7% | 4.0% |
| 最大値 | 82.5% | 65.0% | 57.1% | 37.2% | 9.3% | 30.4% | 24.1% |
| 最小値 | -14.6% | -22.0% | -17.5% | -27.4% | -4.0% | -12.3% | -17.4% |

※上記は当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※上記は2013年7月から2018年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算した理論上のものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<各資産クラスの指数>

日本株 …… 東証株価指数 (TOPIX, 配当込)

先進国株 …… MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込, 円ベース)

新興国株 …… MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込, 円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

東証株価指数 (TOPIX、配当込)

当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI国債

当指数は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

当指数は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。当指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

当ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、2013年7月末の基準価額を起点として指数化しています。

※当ファンドの分配金再投資基準価額および年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算した理論上のものであり、実際の基準価額および実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

日本国債 …… NOMURA-BPI国債

先進国債 …… FTSE世界国債インデックス (除く日本, 円ベース)

新興国債 …… JPモルガンGBI-EMグローバルディバースファイド (円ヘッジなし, 円ベース)

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

4【手数料等及び税金】

（1）【申込手数料】

販売会社が定めるものとし、申込手数料率につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

- ・販売会社における申込手数料率は2.16%（税抜2%）が上限となっております。
 - ・申込手数料の額（1口当たり）は、取得申込受付日の基準価額に申込手数料率を乗じて得た額とします。
 - ・＜分配金再投資コース＞の場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、申込手数料はかかりません。
- 申込手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。

（2）【換金（解約）手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

（3）【信託報酬等】

信託報酬

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し年0.8856%（税抜0.82%）の率を乗じて得た額とします。

信託報酬の配分

信託報酬の配分（年率）は、以下の通りとします。

| 信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率 | | | |
|---------------------------|-------|-------|-------|
| 合計 | 委託会社 | 販売会社 | 受託会社 |
| 0.82% | 0.42% | 0.30% | 0.10% |

| | |
|------|---|
| 委託会社 | 委託した資金の運用の対価 |
| 販売会社 | 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 |
| 受託会社 | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価 |

表中の率は税抜です。別途消費税がかかります。

支払時期

信託報酬（信託報酬に係る消費税等相当額を含みます。）は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（当該終了日が休業日の場合はその翌営業日とします。）および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払います。

（4）【その他の手数料等】

信託財産に関する以下の費用およびそれに付随する消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産か

ら支払います。

組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料および先物・オプション取引などに要する費用。

信託財産の財務諸表の監査に要する費用（日々、計上されます。）。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、外貨建資産の保管などに要する費用、解約に伴う支払資金の手当てなどを目的とした借入金の利息および受託会社の立て替えた立替金の利息。

<投資対象とするマザーファンドに係る費用>

- ・組入有価証券の売買時の売買委託手数料
- ・信託事務の処理に要する諸費用
- ・信託財産に関する租税 など

監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。

* 監査費用、売買委託手数料などは、保有期間や運用の状況などに応じて異なり、あらかじめ見積もることができないため、表示することができません。

投資家の皆様にご負担いただく手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。販売会社によっては「つみたてNISA」の適用対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

確定拠出年金の場合

確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会の場合、所得税および地方税はかかりません。

なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されません。

確定拠出年金でない場合

個人受益者の場合

1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用があります。）のいずれかを選択することもできます。

2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益（譲渡益）*については譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座（源泉徴収選択口座）を選択している場合は、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収（原則として、確定申告は不要です。）が行なわれます。

* 解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みます。）を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損（譲渡損失）については、上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当等および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限り）と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限り）については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。また、未成年者少額投資非課税制度（ジュニアNISA）をご利用の場合、20歳未満

の居住者などを対象に、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。なお、確定拠出年金制度を通じて公募株式投資信託などを購入する場合は、NISAをご利用になれません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。非課税累積投資契約に係る少額投資非課税制度(つみたてNISA)をご利用の場合、毎年、年間40万円の範囲で販売会社との契約に基づいて定期的かつ継続的な方法で購入することにより生じる配当所得および譲渡所得が20年間非課税となります。なお、「NISA」と「つみたてNISA」の投資枠は、年ごとに選択制であり、同一年において両方を併用した投資は行なえません。

法人受益者の場合

1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%(所得税のみ)の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。

2) 益金不算入制度の適用

益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

個別元本

1) 各受益者の買付時の基準価額(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。)が個別元本になります。

2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

2) 受益者が収益分配金を受け取る際

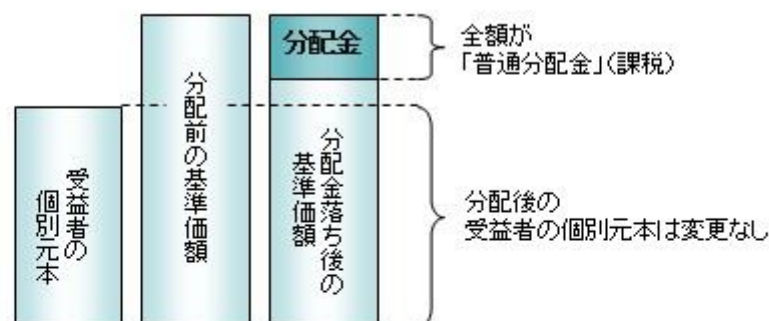
イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。

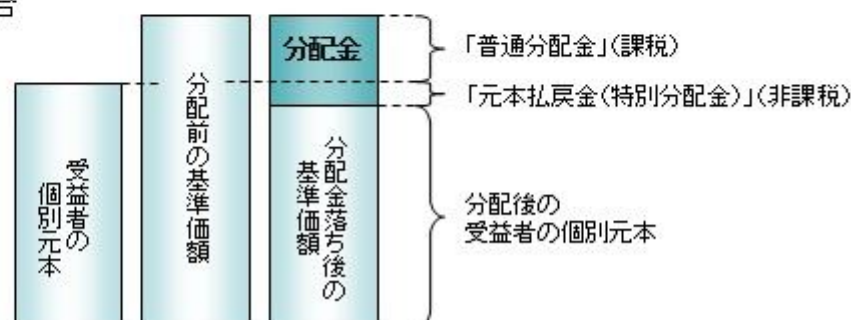
ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

<分配金に関するイメージ図>

イ) の場合



ロ)、ハ) の場合



上記は2018年9月25日現在のものですので、税法または確定拠出年金法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

【年金積立 Jグロース】

以下の運用状況は2018年 6月29日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)【投資状況】

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|-----------------------|------|----------------|---------|
| 親投資信託受益証券 | 日本 | 23,699,771,236 | 99.34 |
| コール・ローン等、その他資産(負債控除後) | | 157,354,086 | 0.66 |
| 合計(純資産総額) | | 23,857,125,322 | 100.00 |

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|------|-----------|---------------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日本 | 親投資信託受益証券 | Jグロース マザーファンド | 8,238,813,612 | 2.8773 | 23,706,155,601 | 2.8766 | 23,699,771,236 | 99.34 |

ロ. 種類別の投資比率

| 種類 | 投資比率(%) |
|-----------|---------|
| 親投資信託受益証券 | 99.34 |
| 合計 | 99.34 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

| 期別 | 純資産総額（百万円） | | 1口当たり純資産額（円） | |
|------------------------|------------|--------|--------------|--------|
| | 分配落ち | 分配付き | 分配落ち | 分配付き |
| 第8計算期間末 (2009年 6月25日) | 2,186 | 2,189 | 0.8830 | 0.8840 |
| 第9計算期間末 (2010年 6月25日) | 2,607 | 2,610 | 0.8810 | 0.8820 |
| 第10計算期間末 (2011年 6月27日) | 2,956 | 2,959 | 0.8794 | 0.8804 |
| 第11計算期間末 (2012年 6月25日) | 3,064 | 3,068 | 0.7851 | 0.7861 |
| 第12計算期間末 (2013年 6月25日) | 4,958 | 4,962 | 1.2062 | 1.2072 |
| 第13計算期間末 (2014年 6月25日) | 6,923 | 6,928 | 1.5220 | 1.5230 |
| 第14計算期間末 (2015年 6月25日) | 10,477 | 10,482 | 2.0750 | 2.0760 |
| 第15計算期間末 (2016年 6月27日) | 10,929 | 10,935 | 1.7186 | 1.7196 |
| 第16計算期間末 (2017年 6月26日) | 15,763 | 15,770 | 2.2424 | 2.2434 |
| 第17計算期間末 (2018年 6月25日) | 23,364 | 23,364 | 2.5413 | 2.5413 |
| 2017年 6月末日 | 15,852 | | 2.2238 | |
| 7月末日 | 16,240 | | 2.2416 | |
| 8月末日 | 16,600 | | 2.2655 | |
| 9月末日 | 17,689 | | 2.3874 | |
| 10月末日 | 19,114 | | 2.5396 | |
| 11月末日 | 20,020 | | 2.5951 | |
| 12月末日 | 20,928 | | 2.6174 | |
| 2018年 1月末日 | 22,352 | | 2.6779 | |
| 2月末日 | 22,334 | | 2.6028 | |
| 3月末日 | 22,384 | | 2.5696 | |
| 4月末日 | 22,950 | | 2.5885 | |
| 5月末日 | 23,353 | | 2.5607 | |
| 6月末日 | 23,857 | | 2.5403 | |

【分配の推移】

| 期 | 期間 | 1口当たりの分配金（円） |
|------|-------------------------|--------------|
| 第8期 | 2008年 6月26日～2009年 6月25日 | 0.0010 |
| 第9期 | 2009年 6月26日～2010年 6月25日 | 0.0010 |
| 第10期 | 2010年 6月26日～2011年 6月27日 | 0.0010 |
| 第11期 | 2011年 6月28日～2012年 6月25日 | 0.0010 |
| 第12期 | 2012年 6月26日～2013年 6月25日 | 0.0010 |
| 第13期 | 2013年 6月26日～2014年 6月25日 | 0.0010 |
| 第14期 | 2014年 6月26日～2015年 6月25日 | 0.0010 |
| 第15期 | 2015年 6月26日～2016年 6月27日 | 0.0010 |
| 第16期 | 2016年 6月28日～2017年 6月26日 | 0.0010 |
| 第17期 | 2017年 6月27日～2018年 6月25日 | 0.0000 |

【収益率の推移】

| 期 | 期間 | 収益率（％） |
|------|-------------------------|--------|
| 第8期 | 2008年 6月26日～2009年 6月25日 | 35.70 |
| 第9期 | 2009年 6月26日～2010年 6月25日 | 0.11 |
| 第10期 | 2010年 6月26日～2011年 6月27日 | 0.07 |
| 第11期 | 2011年 6月28日～2012年 6月25日 | 10.61 |
| 第12期 | 2012年 6月26日～2013年 6月25日 | 53.76 |
| 第13期 | 2013年 6月26日～2014年 6月25日 | 26.26 |
| 第14期 | 2014年 6月26日～2015年 6月25日 | 36.40 |
| 第15期 | 2015年 6月26日～2016年 6月27日 | 17.13 |
| 第16期 | 2016年 6月28日～2017年 6月26日 | 30.54 |
| 第17期 | 2017年 6月27日～2018年 6月25日 | 13.33 |

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

（４）【設定及び解約の実績】

| 期 | 期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） |
|------|-------------------------|---------------|---------------|
| 第8期 | 2008年 6月26日～2009年 6月25日 | 871,016,154 | 313,741,009 |
| 第9期 | 2009年 6月26日～2010年 6月25日 | 904,390,864 | 421,723,944 |
| 第10期 | 2010年 6月26日～2011年 6月27日 | 819,933,753 | 417,614,449 |
| 第11期 | 2011年 6月28日～2012年 6月25日 | 804,857,918 | 263,300,269 |
| 第12期 | 2012年 6月26日～2013年 6月25日 | 1,027,091,772 | 819,472,192 |
| 第13期 | 2013年 6月26日～2014年 6月25日 | 1,543,080,415 | 1,104,499,964 |
| 第14期 | 2014年 6月26日～2015年 6月25日 | 1,838,925,326 | 1,338,694,275 |
| 第15期 | 2015年 6月26日～2016年 6月27日 | 3,126,432,986 | 1,816,402,397 |
| 第16期 | 2016年 6月28日～2017年 6月26日 | 2,535,224,328 | 1,865,078,751 |
| 第17期 | 2017年 6月27日～2018年 6月25日 | 4,355,394,171 | 2,191,306,924 |

（参考）

Jグロース マザーファンド

以下の運用状況は2018年 6月29日現在です。

- ・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資状況

| 資産の種類 | 国・地域 | 時価合計（円） | 投資比率（％） |
|-------|------|----------------|---------|
| 株式 | 日本 | 60,158,420,770 | 97.22 |

| | | | |
|-----------------------|--|----------------|--------|
| コール・ローン等、その他資産(負債控除後) | | 1,720,963,645 | 2.78 |
| 合計(純資産総額) | | 61,879,384,415 | 100.00 |

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

| 国・地域 | 種類 | 銘柄名 | 業種 | 数量又は 額面総額 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|------|----|-------------------|--------|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 日本 | 株式 | ソニー | 電気機器 | 318,000 | 5,491.00 | 1,746,138,000 | 5,664.00 | 1,801,152,000 | 2.91 |
| 日本 | 株式 | キーエンス | 電気機器 | 28,000 | 64,460.00 | 1,804,880,000 | 62,560.00 | 1,751,680,000 | 2.83 |
| 日本 | 株式 | マクロミル | 情報・通信業 | 577,200 | 2,666.00 | 1,538,815,200 | 2,725.00 | 1,572,870,000 | 2.54 |
| 日本 | 株式 | 朝日インテック | 精密機器 | 347,400 | 4,245.00 | 1,474,713,000 | 4,190.00 | 1,455,606,000 | 2.35 |
| 日本 | 株式 | 日本電産 | 電気機器 | 85,800 | 16,605.00 | 1,424,709,000 | 16,625.00 | 1,426,425,000 | 2.31 |
| 日本 | 株式 | 村田製作所 | 電気機器 | 72,700 | 18,146.77 | 1,319,270,590 | 18,620.00 | 1,353,674,000 | 2.19 |
| 日本 | 株式 | スズキ | 輸送用機器 | 207,000 | 6,173.00 | 1,277,811,000 | 6,118.00 | 1,266,426,000 | 2.05 |
| 日本 | 株式 | ニトリホールディングス | 小売業 | 70,000 | 18,305.00 | 1,281,350,000 | 17,280.00 | 1,209,600,000 | 1.95 |
| 日本 | 株式 | 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 278,800 | 4,273.00 | 1,191,312,400 | 4,306.00 | 1,200,512,800 | 1.94 |
| 日本 | 株式 | 伊藤忠商事 | 卸売業 | 580,000 | 2,005.00 | 1,162,900,000 | 2,007.50 | 1,164,350,000 | 1.88 |
| 日本 | 株式 | リログroup | サービス業 | 390,000 | 2,917.00 | 1,137,630,000 | 2,924.00 | 1,140,360,000 | 1.84 |
| 日本 | 株式 | ダイキン工業 | 機械 | 84,000 | 13,435.00 | 1,128,540,000 | 13,270.00 | 1,114,680,000 | 1.80 |
| 日本 | 株式 | リクルートホールディングス | サービス業 | 360,900 | 3,146.00 | 1,135,391,400 | 3,066.00 | 1,106,519,400 | 1.79 |
| 日本 | 株式 | 信越化学工業 | 化学 | 110,000 | 9,800.00 | 1,078,000,000 | 9,873.00 | 1,086,030,000 | 1.76 |
| 日本 | 株式 | トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 142,700 | 7,091.00 | 1,011,885,700 | 7,170.00 | 1,023,159,000 | 1.65 |
| 日本 | 株式 | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 1,460,000 | 625.00 | 912,500,000 | 631.10 | 921,406,000 | 1.49 |
| 日本 | 株式 | 東祥 | サービス業 | 217,500 | 4,280.00 | 930,900,000 | 4,230.00 | 920,025,000 | 1.49 |
| 日本 | 株式 | 本田技研工業 | 輸送用機器 | 266,000 | 3,310.00 | 880,460,000 | 3,253.00 | 865,298,000 | 1.40 |
| 日本 | 株式 | S M C | 機械 | 21,000 | 41,960.00 | 881,160,000 | 40,630.00 | 853,230,000 | 1.38 |
| 日本 | 株式 | パソールホールディングス | サービス業 | 343,600 | 2,502.00 | 859,687,200 | 2,471.00 | 849,035,600 | 1.37 |
| 日本 | 株式 | 日立製作所 | 電気機器 | 1,030,000 | 781.60 | 805,048,000 | 781.60 | 805,048,000 | 1.30 |
| 日本 | 株式 | 任天堂 | その他製品 | 21,300 | 36,110.00 | 769,143,000 | 36,200.00 | 771,060,000 | 1.25 |
| 日本 | 株式 | ソフトバンクグループ | 情報・通信業 | 95,900 | 8,198.00 | 786,188,200 | 7,973.00 | 764,610,700 | 1.24 |
| 日本 | 株式 | ファンケル | 化学 | 127,700 | 5,390.00 | 688,303,000 | 5,550.00 | 708,735,000 | 1.15 |
| 日本 | 株式 | H O Y A | 精密機器 | 106,000 | 6,358.00 | 673,948,000 | 6,299.00 | 667,694,000 | 1.08 |
| 日本 | 株式 | 日本電信電話 | 情報・通信業 | 130,000 | 5,137.00 | 667,810,000 | 5,036.00 | 654,680,000 | 1.06 |
| 日本 | 株式 | 大塚商会 | 情報・通信業 | 142,600 | 4,500.00 | 641,700,000 | 4,345.00 | 619,597,000 | 1.00 |
| 日本 | 株式 | 中外製薬 | 医薬品 | 102,200 | 5,900.00 | 602,980,000 | 5,810.00 | 593,782,000 | 0.96 |
| 日本 | 株式 | 第一生命ホールディングス | 保険業 | 298,000 | 1,966.00 | 585,868,000 | 1,976.00 | 588,848,000 | 0.95 |

| | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|--------|----------|-------------|----------|-------------|------|
| 日本 | 株式 | 資生堂 | 化学 | 66,500 | 8,774.00 | 583,471,000 | 8,798.00 | 585,067,000 | 0.95 |
|----|----|-----|----|--------|----------|-------------|----------|-------------|------|

ロ.種類別及び業種別の投資比率

| 種類 | 国内 / 国外 | 業種 | 投資比率(%) |
|------------|---------|----------|---------|
| 株式 | 国内 | 水産・農林業 | 0.39 |
| | | 鉱業 | 0.47 |
| | | 建設業 | 2.37 |
| | | 食料品 | 0.63 |
| | | 繊維製品 | 1.21 |
| | | 化学 | 8.01 |
| | | 医薬品 | 3.16 |
| | | ガラス・土石製品 | 0.43 |
| | | 鉄鋼 | 0.67 |
| | | 非鉄金属 | 0.79 |
| | | 機械 | 7.14 |
| | | 電気機器 | 14.77 |
| | | 輸送用機器 | 8.66 |
| | | 精密機器 | 5.62 |
| | | その他製品 | 1.78 |
| | | 陸運業 | 2.14 |
| | | 情報・通信業 | 9.63 |
| | | 卸売業 | 2.69 |
| | | 小売業 | 4.76 |
| | | 銀行業 | 3.43 |
| 証券、商品先物取引業 | 0.42 | | |
| 保険業 | 2.14 | | |
| その他金融業 | 1.21 | | |
| 不動産業 | 3.03 | | |
| サービス業 | 11.69 | | |
| 合 計 | | | 97.22 |

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

参考情報

運用実績

2018年6月29日現在

基準価額・純資産の推移



基準価額..... 25,403円

純資産総額..... 238.57億円

※基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、2008年6月末の基準価額を起点として指数化しています。

※分配金再投資基準価額は当ファンドに過去10年間、分配実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

分配の推移(税引前、1万口当たり)

| 2014年6月 | 2015年6月 | 2016年6月 | 2017年6月 | 2018年6月 | 設定来累計 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 10円 | 10円 | 10円 | 10円 | 0円 | 120円 |

主要な資産の状況

<資産構成比率>

| 組入資産 | 比率 |
|-------|-------|
| 株式 | 96.6% |
| うち先物 | 0.0% |
| 現金その他 | 3.4% |

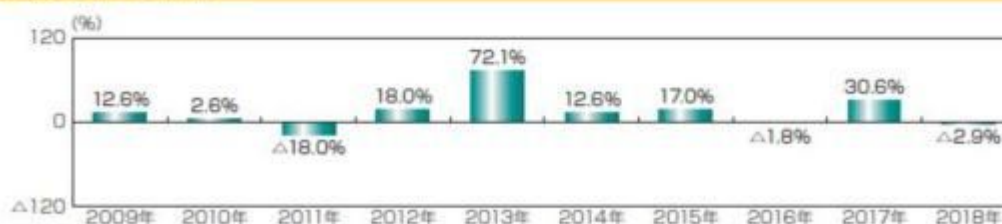
※当ファンドの実質組入比率です。

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数:126銘柄)

| | 銘柄 | 業種 | 比率 |
|----|-----------------|--------|-------|
| 1 | ソニー | 電気機器 | 2.91% |
| 2 | キーエンス | 電気機器 | 2.83% |
| 3 | マクロミル | 情報・通信業 | 2.54% |
| 4 | 朝日インテック | 精密機器 | 2.35% |
| 5 | 日本電産 | 電気機器 | 2.31% |
| 6 | 村田製作所 | 電気機器 | 2.19% |
| 7 | スズキ | 輸送用機器 | 2.05% |
| 8 | ニトリホールディングス | 小売業 | 1.95% |
| 9 | 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 1.94% |
| 10 | 伊藤忠商事 | 卸売業 | 1.88% |

※マザーファンドの対純資産総額比です。

年間収益率の推移



※ファンドの年間収益率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。

※2018年は、2018年6月末までの騰落率です。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。

※ファンドの運用状況は別途、委託会社のホームページで開示しています。

第2【管理及び運営】

1【申込(販売)手続等】

(1) 申込方法

販売会社所定の方法でお申し込みください。なお、確定拠出年金制度上の取得申込みを行なう場合は、当該規定に従うものとします。

(2) コースの選択

収益分配金の受取方法によって、<分配金再投資コース>と<分配金受取りコース>の2通りがあります。ただし、販売会社によって取扱コースは異なります。

<分配金再投資コース>

収益分配金を自動的に再投資するコースです。なお、販売会社によっては、収益分配金を定期的に受け取るための「定期引出契約」を結ぶことができます場合があります。

<分配金受取りコース>

収益分配金を再投資せず、その都度受け取るコースです。

(3) 申込みの受付

販売会社の営業日に受け付けます。

(4) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

(5) 申込金額

取得申込受付日の基準価額に取得申込口数を乗じて得た額に、申込手数料と当該手数料に係る消費税等相当額を加算した額です。

(6) 申込単位

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。ただし、確定拠出年金制度上の取得申込みを行なう場合は、1円以上1円単位とします。

<委託会社の照会先>

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(7) 申込代金の支払い

取得申込者は、申込金額を販売会社が指定する日までに販売会社へお支払いください。

(8) 受付の中止および取消

委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得の申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた取得の申込みの受付を取り消すことができます。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場をいいます。

2【換金(解約)手続等】

<解約請求による換金>

(1) 解約の受付

販売会社の営業日に受け付けます。

(2) 取扱時間

原則として、午後3時までに、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。なお、上記時刻を過ぎた場合は、翌営業日の取扱いとなります。

(3) 解約制限

ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の解約には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(4) 解約価額

解約請求受付日の基準価額とします。

・基準価額につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

< 委託会社の照会先 >

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(5) 手取額

1口当たりの手取額は、解約価額に基づいて計算された金額となります。

確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会が委託する事務委託先金融機関でない場合、解約価額から所得税および地方税が差し引かれます。

税法または確定拠出年金法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。詳しくは、「課税上の取扱い」をご覧ください。

(6) 解約単位

1口単位

販売会社によっては、解約単位が異なる場合があります。

(7) 解約代金の支払い

原則として、解約請求受付日から起算して4営業日目からお支払いします。

(8) 受付の中止および取消

- 委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止すること、および既に受け付けた解約請求の受付を取り消すことができます。
- 解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとして取り扱います。

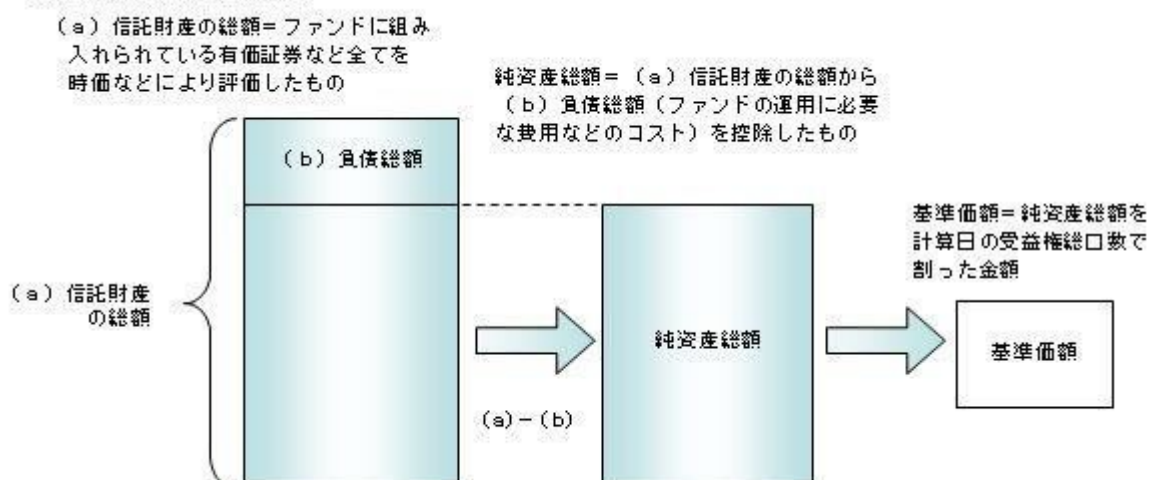
3【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

基準価額の算出

- 基準価額は委託会社の営業日において日々算出されます。
- 基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を評価して得た信託財産の総額から負債総額を控除した金額（純資産総額）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、ファンドは1万口当たりに換算した価額で表示することがあります。

< 基準価額算出の流れ >



有価証券などの評価基準

- 信託財産に属する資産については、法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価します。

< 主な資産の評価方法 >

マザーファンド受益証券

基準価額計算日の基準価額で評価します。

国内上場株式

原則として、基準価額計算日におけるわが国の金融商品取引所の最終相場で評価します。

- ・外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金その他の資産をいいます。）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客相場の仲値によって計算します。

基準価額の照会方法

販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。

< 委託会社の照会先 >

日興アセットマネジメント株式会社

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

コールセンター 電話番号 0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

無期限とします（2001年10月31日設定）。ただし、約款の規定に基づき、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

(4) 【計算期間】

毎年6月26日から翌年6月25日までとします。ただし、各計算期間の末日が休業日のときはその翌営業日を計算期間の末日とし、その翌日より次の計算期間が開始されます。

(5) 【その他】

信託の終了（繰上償還）

- 1) 委託会社は、受託会社と合意の上、信託契約を解約し繰上償還させることができます。
 - 2) この場合、あらかじめ、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
 - 3) この繰上償還に異議のある受益者は、一定の期間内（1ヵ月以上で委託会社が定めます。以下同じ。）に異議を述べるすることができます。（後述の「異議の申立て」をご覧ください。）
 - 4) 委託会社は、次のいずれかの場合には、後述の「異議の申立て」の規定は適用せず、信託契約を解約し繰上償還させます。
 - イ) 信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合で、一定の期間を設けてその公告および書面の交付が困難な場合
 - ロ) 監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたとき
 - ハ) 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じ、異議申立の結果、信託約款の変更が成立の場合を除きます。）
 - 二) 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合またはその任務に違反するなどして解任された場合に、委託会社が新受託会社を選任できないとき
- 5) 繰上償還を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

償還金について

- ・償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日まで）から受益者に支払います。
- ・償還金の支払いは、販売会社において行なわれます。

信託約款の変更

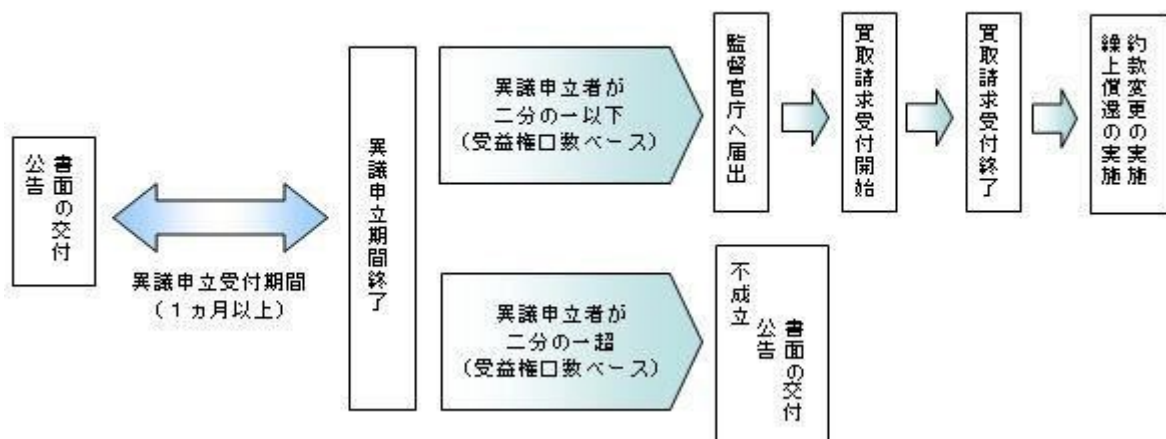
- 1) 委託会社は、受託会社と合意の上、この信託約款を変更することができます。信託約款の変更を行なう際には、委託会社は、その旨をあらかじめ監督官庁に届け出ます。

- 2) この変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、その旨およびその内容などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) この信託約款の変更に異議のある受益者は、一定の期間内に異議を述べることができます。(後述の「異議の申立て」をご覧ください。)
- 4) 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、後述の「異議の申立て」の規定を適用します。

異議の申立て

- 1) 繰上償還または信託約款の重大な変更に対して、受益者は一定の期間内に委託会社に対して所定の手続きにより異議を述べることができます。一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一を超えるときは、繰上償還または信託約款の変更は行いません。
- 2) 委託会社は、繰上償還または信託約款の変更を行わない場合は、その旨およびその理由などを公告し、かつ知られたる受益者に書面を交付します。ただし、全ての受益者に書面を交付した場合は、原則として公告を行いません。
- 3) なお、一定の期間内に、異議を述べた受益者の受益権口数が受益権総口数の二分の一以下で、繰上償還、信託約款の変更を行なう場合は、異議を述べた受益者は受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買い取るべき旨を請求できます。

<繰上償還、信託約款の重大な変更を行なう場合の手続きの流れ>



公告

公告は日本経済新聞に掲載します。

運用報告書の作成

- ・委託会社は、毎期決算後および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成します。
- ・交付運用報告書は、原則として知っている受益者に対して交付されます。
- ・運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページに掲載されます。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の交付請求があった場合には、交付します。

ホームページ アドレス <http://www.nikkoam.com/>

関係法人との契約について

販売会社との募集の取扱いなどに関する契約の有効期間は契約日より1年間とします。ただし、期間満了の3ヵ月前までに、販売会社、委託会社いずれからも別段の意思表示がないときは、自動的に1年間延長されるものとし、以後も同様とします。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

(1) 収益分配金・償還金受領権

- ・受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。
- ・ただし、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

(2) 解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき販売会社を通じて、委託会社に解約の請求をすることができます。

(3) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- (1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第17期計算期間（平成29年 6月27日から平成30年 6月25日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【年金積立　Ｊグロース】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

| | 第16期 平成29年 6月26日現在 | 第17期 平成30年 6月25日現在 |
|------------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 金銭信託 | - | 159,644,041 |
| コール・ローン | 166,595,996 | 128,958,388 |
| 親投資信託受益証券 | 15,685,111,435 | 23,204,567,689 |
| 流動資産合計 | 15,851,707,431 | 23,493,170,118 |
| 資産合計 | 15,851,707,431 | 23,493,170,118 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払収益分配金 | 7,029,686 | - |
| 未払解約金 | 17,851,678 | 29,470,776 |
| 未払受託者報酬 | 7,654,856 | 12,085,459 |
| 未払委託者報酬 | 55,115,391 | 87,015,774 |
| 未払利息 | 272 | 220 |
| その他未払費用 | 375,031 | 592,129 |
| 流動負債合計 | 88,026,914 | 129,164,358 |
| 負債合計 | 88,026,914 | 129,164,358 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 7,029,686,203 | 9,193,773,450 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金 () | 8,733,994,314 | 14,170,232,310 |
| (分配準備積立金) | 3,779,872,980 | 4,479,673,417 |
| 元本等合計 | 15,763,680,517 | 23,364,005,760 |
| 純資産合計 | 15,763,680,517 | 23,364,005,760 |
| 負債純資産合計 | 15,851,707,431 | 23,493,170,118 |

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

| | 第16期 | | 第17期 | |
|---|------|------------------------------|------|------------------------------|
| | 自 | 平成28年 6月28日 至 平成29年 6月26日 | 自 | 平成29年 6月27日 至 平成30年 6月25日 |
| 営業収益 | | | | |
| 受取利息 | | 132 | | 618 |
| 有価証券売買等損益 | | 3,750,676,412 | | 2,256,802,655 |
| 営業収益合計 | | 3,750,676,544 | | 2,256,803,273 |
| 営業費用 | | | | |
| 支払利息 | | 46,916 | | 93,859 |
| 受託者報酬 | | 14,470,399 | | 21,642,814 |
| 委託者報酬 | | 104,187,737 | | 155,829,189 |
| その他費用 | | 709,177 | | 1,062,469 |
| 営業費用合計 | | 119,414,229 | | 178,628,331 |
| 営業利益又は営業損失（ ） | | 3,631,262,315 | | 2,078,174,942 |
| 経常利益又は経常損失（ ） | | 3,631,262,315 | | 2,078,174,942 |
| 当期純利益又は当期純損失（ ） | | 3,631,262,315 | | 2,078,174,942 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ） | | 420,480,036 | | 469,589,500 |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ） | | 4,570,031,340 | | 8,733,994,314 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 2,340,219,751 | | 6,665,005,174 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | - | | - |
| 当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 2,340,219,751 | | 6,665,005,174 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 1,380,009,370 | | 2,837,352,620 |
| 当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 1,380,009,370 | | 2,837,352,620 |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | - | | - |
| 分配金 | | 7,029,686 | | - |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | | 8,733,994,314 | | 14,170,232,310 |

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|----------------------------|--|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。 |
| 2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | 当ファンドの計算期間は原則として、毎年6月26日から翌年6月25日までとなっております。ただし、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日以降の営業日である日のうち、該当日に最も近い日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものといたしますので、当計算期間は平成29年6月27日から平成30年6月25日までとなっております。 |

(貸借対照表に関する注記)

| | | 第16期 平成29年6月26日現在 | 第17期 平成30年6月25日現在 |
|----|-----------|----------------------|----------------------|
| 1. | 期首元本額 | 6,359,540,626円 | 7,029,686,203円 |
| | 期中追加設定元本額 | 2,535,224,328円 | 4,355,394,171円 |
| | 期中一部解約元本額 | 1,865,078,751円 | 2,191,306,924円 |
| 2. | 受益権の総数 | 7,029,686,203口 | 9,193,773,450口 |

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 第16期 自平成28年6月28日 至平成29年6月26日 | | 第17期 自平成29年6月27日 至平成30年6月25日 | |
|------------------------------------|------------------------------|------------------------------------|---|
| 分配金の計算過程 | | 分配金の計算過程 | |
| A | 計算期末における費用控除後の 配当等収益 | 209,678,529円 | A 計算期末における費用控除後の 配当等収益 262,497,929円 |
| B | 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 | 1,539,472,535円 | B 費用控除後、繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益 1,346,087,513円 |
| C | 信託約款に定める収益調整金 | 7,056,284,179円 | C 信託約款に定める収益調整金 11,307,214,678円 |
| D | 信託約款に定める分配準備積立 金 | 2,037,751,602円 | D 信託約款に定める分配準備積立 金 2,871,087,975円 |
| E | 分配対象収益(A+B+C+D) | 10,843,186,845円 | E 分配対象収益(A+B+C+D) 15,786,888,095円 |
| F | 分配対象収益(1万口当たり) | 15,424円 | F 分配対象収益(1万口当たり) 17,171円 |
| G | 分配金額 | 7,029,686円 | G 分配金額 0円 |
| H | 分配金額(1万口当たり) | 10円 | H 分配金額(1万口当たり) 0円 |

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | 第16期 自平成28年6月28日 至平成29年6月26日 | 第17期 自平成29年6月27日 至平成30年6月25日 |
|--|------------------------------------|------------------------------------|
| | | |

| | | |
|-----------------------|---|----|
| 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。 | 同左 |
| 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。 | 同左 |
| 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。 | 同左 |

金融商品の時価等に関する事項

| | 第16期 平成29年 6月26日現在 | 第17期 平成30年 6月25日現在 |
|-------------------------|---|--|
| 貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。 | 同左 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。 | (1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)上記以外の金融商品 同左 |
| 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 | 同左 |

(有価証券に関する注記)

第16期（平成29年 6月26日現在）

売買目的有価証券

(単位：円)

| 種類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|-------------------|
| 親投資信託受益証券 | 3,593,996,410 |
| 合計 | 3,593,996,410 |

第17期（平成30年 6月25日現在）

売買目的有価証券

(単位：円)

| 種類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|-----------|-------------------|
| 親投資信託受益証券 | 2,217,545,965 |
| 合計 | 2,217,545,965 |

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

| 第16期 平成29年 6月26日現在 | | 第17期 平成30年 6月25日現在 | |
|-----------------------|-----------|-----------------------|-----------|
| 1口当たり純資産額 | 2,242円 | 1口当たり純資産額 | 2,541円 |
| (1万口当たり純資産額) | (22,424円) | (1万口当たり純資産額) | (25,413円) |

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位：円)

| 種類 | 銘柄 | 券面総額 | 評価額 | 備考 |
|----|----|------|-----|----|
|----|----|------|-----|----|

| | | | | |
|-----------|---------------|---------------|----------------|--|
| 親投資信託受益証券 | Jグロース マザーファンド | 8,064,141,682 | 23,204,567,689 | |
| 合計 | | 8,064,141,682 | 23,204,567,689 | |

(注)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

当ファンドは、「Jグロース マザーファンド」を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は同親投資信託です。なお、同親投資信託の状況は次の通りです。ただし、当該情報は監査の対象外であります。

(参考)

Jグロース マザーファンド

貸借対照表

| | 平成29年 6月26日現在 | 平成30年 6月25日現在 |
|--------------|----------------|----------------|
| (単位：円) | | |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 金銭信託 | - | 648,303,789 |
| コール・ローン | 446,161,348 | 523,691,401 |
| 株式 | 52,266,003,390 | 60,104,299,270 |
| 未収入金 | 606,853,844 | - |
| 未収配当金 | 188,014,400 | 248,422,150 |
| 流動資産合計 | 53,507,032,982 | 61,524,716,610 |
| 資産合計 | 53,507,032,982 | 61,524,716,610 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | 281,409,078 | - |
| 未払解約金 | 159,596,103 | 461,358,115 |
| 未払利息 | 729 | 894 |
| 流動負債合計 | 441,005,910 | 461,359,009 |
| 負債合計 | 441,005,910 | 461,359,009 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 21,095,440,123 | 21,220,753,483 |
| 剰余金 | | |
| 剰余金又は欠損金() | 31,970,586,949 | 39,842,604,118 |
| 元本等合計 | 53,066,027,072 | 61,063,357,601 |

平成29年 6月26日現在

平成30年 6月25日現在

| | | |
|---------|----------------|----------------|
| 純資産合計 | 53,066,027,072 | 61,063,357,601 |
| 負債純資産合計 | 53,507,032,982 | 61,524,716,610 |

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|-----------------|---|
| 有価証券の評価基準及び評価方法 | <p>株式は移動平均法に基づき、以下のとおり原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の日の最終相場）で評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 当該有価証券については、原則として、日本証券業協会等発表の店頭売買参考統計値（平均値）等、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> |
|-----------------|---|

(貸借対照表に関する注記)

| | | 平成29年 6月26日現在 | 平成30年 6月25日現在 |
|----|------------------------------|-----------------|-----------------|
| 1. | 期首 | 平成28年 6月28日 | 平成29年 6月27日 |
| | 期首元本額 | 23,133,334,963円 | 21,095,440,123円 |
| | 期首からの追加設定元本額 | 2,037,144,005円 | 2,947,057,294円 |
| | 期首からの一部解約元本額 | 4,075,038,845円 | 2,821,743,934円 |
| | 元本の内訳 | | |
| | 利益還元成長株オープン | 13,918,413,602円 | 11,413,717,714円 |
| | 年金積立 Jグロース | 6,235,385,186円 | 8,064,141,682円 |
| | スマート・ラップ・ジャパン（毎月分配型） | 127,376,871円 | 307,336,725円 |
| | スマート・ラップ・ジャパン（1年決算型） | 187,420,366円 | 372,977,601円 |
| | 日本バリュー・グロース株式ファンド（適格機関投資家向け） | 626,844,098円 | 1,062,579,761円 |
| | 計 | 21,095,440,123円 | 21,220,753,483円 |
| 2. | 受益権の総数 | 21,095,440,123口 | 21,220,753,483口 |

当該親投資信託受益証券を投資対象とする投資信託ごとの元本額

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

| | | |
|--|--------------------------------|--------------------------------|
| | 自 平成28年 6月28日 至 平成29年 6月26日 | 自 平成29年 6月27日 至 平成30年 6月25日 |
|--|--------------------------------|--------------------------------|

| | | |
|-----------------------|---|----|
| 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。 | 同左 |
| 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。 | 同左 |
| 金融商品に係るリスク管理体制 | 運用部門、営業部門と独立した組織であるリスク管理部門を設置し、全社的なリスク管理活動のモニタリング、指導の一元化を図っております。 | 同左 |

金融商品の時価等に関する事項

| | 平成29年 6月26日現在 | 平成30年 6月25日現在 |
|-------------------------|---|--|
| 貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。 | 同左 |
| 時価の算定方法 | (1)有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。 | (1)有価証券 同左 (2)デリバティブ取引 同左 (3)上記以外の金融商品 同左 |
| 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 | 同左 |

(有価証券に関する注記)

(平成29年 6月26日現在)

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|----|-------------------|
| 株式 | 10,620,789,636 |
| 合計 | 10,620,789,636 |

（平成30年 6月25日現在）

売買目的有価証券

（単位：円）

| 種類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額 |
|----|-------------------|
| 株式 | 5,627,198,154 |
| 合計 | 5,627,198,154 |

(注)当計算期間の損益に含まれた評価差額は、親投資信託の期首日から本書における開示対象ファンドの計算期間末日までに対応する金額であります。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

| 平成29年 6月26日現在 | | 平成30年 6月25日現在 | |
|---------------|-----------|---------------|-----------|
| 1口当たり純資産額 | 2.5155円 | 1口当たり純資産額 | 2.8775円 |
| (1万口当たり純資産額) | (25,155円) | (1万口当たり純資産額) | (28,775円) |

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

（単位：円）

| 銘柄 | 株式数 | 評価額 | | 備考 |
|----------|---------|----------|-------------|----|
| | | 単価 | 金額 | |
| サカタのタネ | 57,300 | 4,045.00 | 231,778,500 | |
| 国際石油開発帝石 | 252,700 | 1,129.50 | 285,424,650 | |
| 前田建設工業 | 155,400 | 1,283.00 | 199,378,200 | |
| 五洋建設 | 700,000 | 718.00 | 502,600,000 | |

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|---------------|
| 大和ハウス工業 | 107,400 | 3,694.00 | 396,735,600 |
| ライト工業 | 67,000 | 1,137.00 | 76,179,000 |
| OSJBホールディングス | 950,000 | 272.00 | 258,400,000 |
| アリアケジャパン | 41,100 | 9,310.00 | 382,641,000 |
| 東洋紡 | 158,500 | 1,813.00 | 287,360,500 |
| 東レ | 525,000 | 861.20 | 452,130,000 |
| デンカ | 145,900 | 3,660.00 | 533,994,000 |
| 信越化学工業 | 110,000 | 9,800.00 | 1,078,000,000 |
| 積水化学工業 | 215,000 | 1,798.00 | 386,570,000 |
| 宇部興産 | 180,000 | 2,840.00 | 511,200,000 |
| 日立化成 | 216,700 | 2,162.00 | 468,505,400 |
| 花王 | 23,500 | 8,514.00 | 200,079,000 |
| 太陽ホールディングス | 44,500 | 4,490.00 | 199,805,000 |
| 資生堂 | 66,500 | 8,774.00 | 583,471,000 |
| ファンケル | 127,700 | 5,390.00 | 688,303,000 |
| 日東電工 | 27,000 | 8,221.00 | 221,967,000 |
| 塩野義製薬 | 86,400 | 5,610.00 | 484,704,000 |
| 中外製薬 | 102,200 | 5,900.00 | 602,980,000 |
| 大塚ホールディングス | 66,500 | 5,527.00 | 367,545,500 |
| ペプチドリーム | 111,000 | 4,665.00 | 517,815,000 |
| 日本碍子 | 135,000 | 1,949.00 | 263,115,000 |
| 日立金属 | 360,000 | 1,122.00 | 403,920,000 |
| 住友金属鉱山 | 43,200 | 4,238.00 | 183,081,600 |
| リョービ | 83,200 | 3,555.00 | 295,776,000 |
| S M C | 21,000 | 41,960.00 | 881,160,000 |
| 住友重機械工業 | 69,000 | 3,685.00 | 254,265,000 |
| 荏原製作所 | 137,700 | 3,300.00 | 454,410,000 |
| ダイキン工業 | 84,000 | 13,435.00 | 1,128,540,000 |
| ダイフク | 87,300 | 4,940.00 | 431,262,000 |
| アマノ | 137,300 | 2,525.00 | 346,682,500 |
| 新晃工業 | 191,200 | 1,909.00 | 365,000,800 |
| ホシザキ | 29,100 | 11,590.00 | 337,269,000 |
| 日本精工 | 241,600 | 1,145.00 | 276,632,000 |
| 日立製作所 | 1,030,000 | 781.60 | 805,048,000 |
| 日本電産 | 85,800 | 16,605.00 | 1,424,709,000 |
| 能美防災 | 110,000 | 2,396.00 | 263,560,000 |
| ソニー | 318,000 | 5,491.00 | 1,746,138,000 |
| T D K | 18,700 | 11,410.00 | 213,367,000 |
| タムラ製作所 | 306,400 | 648.00 | 198,547,200 |
| ホシデン | 174,500 | 937.00 | 163,506,500 |
| スミダコーポレーション | 277,300 | 1,192.00 | 330,541,600 |
| アオイ電子 | 17,500 | 3,400.00 | 59,500,000 |

| | | | | |
|------------------|-----------|-----------|---------------|--|
| キーエンス | 28,000 | 64,460.00 | 1,804,880,000 | |
| 日本セラミック | 52,200 | 2,947.00 | 153,833,400 | |
| ローム | 26,600 | 9,180.00 | 244,188,000 | |
| 京セラ | 60,000 | 6,158.00 | 369,480,000 | |
| 村田製作所 | 49,500 | 18,125.00 | 897,187,500 | |
| 東京エレクトロン | 23,500 | 18,635.00 | 437,922,500 | |
| ダイハツディーゼル | 95,000 | 821.00 | 77,995,000 | |
| トヨタ自動車 | 142,700 | 7,091.00 | 1,011,885,700 | |
| 日野自動車 | 484,000 | 1,164.00 | 563,376,000 | |
| エフテック | 204,000 | 1,426.00 | 290,904,000 | |
| 武蔵精密工業 | 58,400 | 3,750.00 | 219,000,000 | |
| 日信工業 | 161,200 | 1,960.00 | 315,952,000 | |
| 本田技研工業 | 266,000 | 3,310.00 | 880,460,000 | |
| スズキ | 207,000 | 6,173.00 | 1,277,811,000 | |
| ショーワ | 302,300 | 1,911.00 | 577,695,300 | |
| シマノ | 12,800 | 16,140.00 | 206,592,000 | |
| テルモ | 84,500 | 6,560.00 | 554,320,000 | |
| ナカニシ | 108,000 | 2,472.00 | 266,976,000 | |
| オリンパス | 104,500 | 4,135.00 | 432,107,500 | |
| HOYA | 106,000 | 6,358.00 | 673,948,000 | |
| 朝日インテック | 347,400 | 4,245.00 | 1,474,713,000 | |
| CYBERDYNE | 87,000 | 1,304.00 | 113,448,000 | |
| パイロットコーポレーション | 53,200 | 6,300.00 | 335,160,000 | |
| 任天堂 | 21,300 | 36,110.00 | 769,143,000 | |
| 東海旅客鉄道 | 13,600 | 23,590.00 | 320,824,000 | |
| 西武ホールディングス | 265,500 | 1,866.00 | 495,423,000 | |
| セイノーホールディングス | 93,600 | 1,983.00 | 185,608,800 | |
| SGホールディングス | 135,500 | 2,338.00 | 316,799,000 | |
| システナ | 200,000 | 1,199.00 | 239,800,000 | |
| AOI TYO Holdings | 359,600 | 1,376.00 | 494,809,600 | |
| マクロミル | 577,200 | 2,666.00 | 1,538,815,200 | |
| PKSHA Technology | 10,000 | 12,240.00 | 122,400,000 | |
| ソースネクスト | 340,000 | 803.00 | 273,020,000 | |
| メルカリ | 36,000 | 4,270.00 | 153,720,000 | |
| ヤフー | 1,248,400 | 370.00 | 461,908,000 | |
| 大塚商会 | 142,600 | 4,500.00 | 641,700,000 | |
| 日本電信電話 | 130,000 | 5,137.00 | 667,810,000 | |
| エヌ・ティ・ティ・データ | 407,400 | 1,266.00 | 515,768,400 | |
| ソフトバンクグループ | 95,900 | 8,198.00 | 786,188,200 | |
| ラクーン | 150,000 | 561.00 | 84,150,000 | |
| 伊藤忠商事 | 580,000 | 2,005.00 | 1,162,900,000 | |
| 三菱商事 | 65,800 | 3,083.00 | 202,861,400 | |

| | | | |
|-------------------|------------|-----------|----------------|
| 阪和興業 | 49,800 | 4,275.00 | 212,895,000 |
| マツモトキヨシホールディングス | 48,600 | 5,040.00 | 244,944,000 |
| TOKYO BASE | 85,900 | 900.00 | 77,310,000 |
| 良品計画 | 2,000 | 39,000.00 | 78,000,000 |
| ドンキホーテホールディングス | 82,000 | 5,360.00 | 439,520,000 |
| スギホールディングス | 19,000 | 6,640.00 | 126,160,000 |
| イズミ | 35,300 | 6,980.00 | 246,394,000 |
| ニトリホールディングス | 70,000 | 18,305.00 | 1,281,350,000 |
| ファーストリテイリング | 7,600 | 51,640.00 | 392,464,000 |
| 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 1,460,000 | 625.00 | 912,500,000 |
| 三井住友フィナンシャルグループ | 278,800 | 4,273.00 | 1,191,312,400 |
| 野村ホールディングス | 479,100 | 540.20 | 258,809,820 |
| SOMPOホールディングス | 100,000 | 4,548.00 | 454,800,000 |
| 第一生命ホールディングス | 298,000 | 1,966.00 | 585,868,000 |
| T&Dホールディングス | 173,200 | 1,676.00 | 290,283,200 |
| アルヒ | 89,700 | 2,259.00 | 202,632,300 |
| 東京センチュリー | 24,500 | 6,280.00 | 153,860,000 |
| オリックス | 220,800 | 1,774.50 | 391,809,600 |
| いちご | 875,900 | 523.00 | 458,095,700 |
| ユニゾホールディングス | 26,200 | 2,069.00 | 54,207,800 |
| フージャースホールディングス | 100,000 | 778.00 | 77,800,000 |
| 東急不動産ホールディングス | 144,000 | 778.00 | 112,032,000 |
| パーク24 | 38,900 | 2,982.00 | 115,999,800 |
| 住友不動産 | 106,000 | 4,154.00 | 440,324,000 |
| イオンモール | 105,900 | 1,996.00 | 211,376,400 |
| カチタス | 59,000 | 4,435.00 | 261,665,000 |
| 日本M&Aセンター | 179,600 | 3,390.00 | 608,844,000 |
| タケエイ | 186,500 | 1,212.00 | 226,038,000 |
| パーソルホールディングス | 343,600 | 2,502.00 | 859,687,200 |
| エムスリー | 109,600 | 4,515.00 | 494,844,000 |
| ディー・エヌ・エー | 61,100 | 2,067.00 | 126,293,700 |
| プレステージ・インターナショナル | 391,000 | 1,494.00 | 584,154,000 |
| セントラルスポーツ | 14,300 | 4,105.00 | 58,701,500 |
| テクノプロ・ホールディングス | 51,500 | 6,840.00 | 352,260,000 |
| ベクトル | 203,400 | 2,321.00 | 472,091,400 |
| リクルートホールディングス | 360,900 | 3,146.00 | 1,135,391,400 |
| グローバルグループ | 40,000 | 1,904.00 | 76,160,000 |
| ソラスト | 106,000 | 3,885.00 | 411,810,000 |
| リログループ | 390,000 | 2,917.00 | 1,137,630,000 |
| 東祥 | 217,500 | 4,280.00 | 930,900,000 |
| 合 計 | 24,066,500 | | 60,104,299,270 |

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2018年 6月29日現在です。

【年金積立 J グロース】

【純資産額計算書】

| | |
|----------------|-----------------|
| 資産総額 | 23,895,230,848円 |
| 負債総額 | 38,105,526円 |
| 純資産総額（ - ） | 23,857,125,322円 |
| 発行済口数 | 9,391,610,816口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 2.5403円 |

（参考）

J グロース マザーファンド

純資産額計算書

| | |
|----------------|-----------------|
| 資産総額 | 62,782,812,426円 |
| 負債総額 | 903,428,011円 |
| 純資産総額（ - ） | 61,879,384,415円 |
| 発行済口数 | 21,511,338,297口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 2.8766円 |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）名義書換

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求を行なわないものとします。

（2）受益者に対する特典

該当事項はありません。

（3）譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

受益権の譲渡

- ・受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ・前述の申請のある場合には、振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社債、株式等の振替に関する法律の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ・前述の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている

振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合などにおいて、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(4) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(5) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払いなどについては、約款の規定によるほか、民法その他の法令などにしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額

| | | |
|------------|----------|-----------------|
| 2018年6月末現在 | 資本金 | 17,363,045,900円 |
| | 発行可能株式総数 | 230,000,000株 |
| | 発行済株式総数 | 197,012,500株 |

過去5年間における主な資本金の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の意思決定機関（2018年6月末現在）

・株主総会

株主総会は、取締役・監査役の選任および定款変更に係る決議などの株式会社の基本的な方針や重要な事項の決定を行ないます。

当社は、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された議決権を有する株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において、その権利を行使することができる株主とみなし、毎年3月31日（事業年度の終了）から3ヶ月以内にこれを招集し、臨時株主総会は必要に応じてこれを招集します。

・取締役会

取締役会は、業務執行の決定を行い、取締役の職務の執行の監督をします。

当社の取締役会は10名以内の取締役で構成され、取締役の任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。取締役会はその決議をもって、代表取締役若干名を選定します。

・監査役会

当社の監査役会は5名以内の監査役で構成され、監査役の任期は選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までを任期とします。監査役会は、その決議をもって常勤の監査役を選定します。

(3) 運用の意思決定プロセス（2018年6月末現在）

1. 投資委員会にて、国内外の経済見通し、市況見通しおよび資産配分の基本方針を決定します。
2. 各運用部門は、投資委員会の決定に基づき、個別資産および資産配分戦略に係る具体的な運用方針を策定します。
3. 各運用部門のファンドマネージャーは、上記方針を受け、個別ファンドのガイドラインおよびそれぞれの運用方針に沿って、ポートフォリオを構築・管理します。
4. トレーディング部門は、社会的信用力、情報提供力、執行対応力において最適と判断し得る発注業者、発注方針などを決定します。その上で、トレーダーは、最良執行のプロセスに則り売買を執行します。
5. 運用状況の評価・分析および運用リスク管理、ならびに法令など遵守状況のモニタリングについては、運用部門から独立したリスク管理/コンプライアンス業務担当部門が担当し、これを運用部門にフィードバックすることにより、適切な運用体制を維持できるように努めています。

2【事業の内容及び営業の概況】

- ・「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行なっています。
- ・委託会社の運用する、2018年6月末現在の投資信託などは次の通りです。

| 種 類 | ファンド本数 | 純資産額 (単位：億円) |
|---------|--------|-----------------|
| 投資信託総合計 | 810 | 176,770 |

| | | |
|---------|-----|---------|
| 株式投資信託 | 768 | 149,190 |
| 単位型 | 228 | 8,378 |
| 追加型 | 540 | 140,812 |
| 公社債投資信託 | 42 | 27,579 |
| 単位型 | 28 | 457 |
| 追加型 | 14 | 27,121 |

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第59期事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 第58期 (平成29年3月31日) | | 第59期 (平成30年3月31日) | |
|-----------------|----------------------|--------|----------------------|--------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | | | |
| 現金・預金 | 3 | 16,761 | 3 | 14,024 |
| 金銭の信託 | 3 | 152 | | - |
| 有価証券 | | 10 | | 19 |
| 前払費用 | | 506 | | 551 |
| 未収入金 | | 136 | | 73 |
| 未収委託者報酬 | | 10,757 | | 15,873 |
| 未収収益 | 3 | 2,799 | 3 | 3,174 |
| 関係会社短期貸付金 | | 962 | | 1,128 |
| 立替金 | | 1,240 | | 2,776 |
| 繰延税金資産 | | 865 | | 1,014 |
| その他 | 2,3 | 385 | 2,3 | 4,179 |
| 流動資産合計 | | 34,577 | | 42,814 |
| 固定資産 | | | | |
| 有形固定資産 | | | | |
| 建物 | 1 | 93 | 1 | 68 |
| 器具備品 | 1 | 190 | 1 | 122 |
| 有形固定資産合計 | | 283 | | 191 |
| 無形固定資産 | | | | |
| ソフトウェア | | 138 | | 99 |
| 無形固定資産合計 | | 138 | | 99 |
| 投資その他の資産 | | | | |
| 投資有価証券 | | 11,783 | | 14,103 |
| 関係会社株式 | | 23,203 | | 25,769 |
| 関係会社長期貸付金 | | 60 | | - |
| 長期差入保証金 | | 782 | | 490 |

| | | |
|------------|--------|--------|
| 長期前払費用 | 0 | 0 |
| 繰延税金資産 | 423 | 489 |
| 投資その他の資産合計 | 36,253 | 40,854 |
| 固定資産合計 | 36,674 | 41,144 |
| 資産合計 | 71,252 | 83,959 |

(単位：百万円)

| | 第58期 (平成29年3月31日) | 第59期 (平成30年3月31日) |
|-----------------|----------------------|----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 預り金 | 3 589 | 3 3,804 |
| 未払金 | 4,043 | 5,874 |
| 未払収益分配金 | 7 | 7 |
| 未払償還金 | 91 | 91 |
| 未払手数料 | 3 3,499 | 3 5,124 |
| その他未払金 | 445 | 651 |
| 未払費用 | 3 4,229 | 3 4,634 |
| 未払法人税等 | 1,808 | 2,185 |
| 未払消費税等 | 4 538 | 4 788 |
| 賞与引当金 | 2,077 | 2,286 |
| 役員賞与引当金 | 168 | 198 |
| その他 | 3 62 | 41 |
| 流動負債合計 | 13,517 | 19,813 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 1,259 | 1,316 |
| その他 | - | 318 |
| 固定負債合計 | 1,259 | 1,634 |
| 負債合計 | 14,777 | 21,448 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 17,363 | 17,363 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 5,220 | 5,220 |
| 資本剰余金合計 | 5,220 | 5,220 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 34,015 | 39,959 |
| 利益剰余金合計 | 34,015 | 39,959 |
| 自己株式 | 672 | 786 |
| 株主資本合計 | 55,926 | 61,756 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 282 | 408 |
| 繰延ヘッジ損益 | 266 | 346 |
| 評価・換算差額等合計 | 548 | 754 |
| 純資産合計 | 56,475 | 62,511 |

| | | |
|---------|--------|--------|
| 負債純資産合計 | 71,252 | 83,959 |
|---------|--------|--------|

(2) 【損益計算書】

| | (単位：百万円) | |
|------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | 第58期 | 第59期 |
| | (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 64,680 | 70,609 |
| その他営業収益 | 4,218 | 5,398 |
| 営業収益合計 | 68,898 | 76,008 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 28,675 | 30,448 |
| 広告宣伝費 | 969 | 973 |
| 公告費 | 2 | 2 |
| 調査費 | 17,322 | 18,132 |
| 調査費 | 841 | 862 |
| 委託調査費 | 16,456 | 17,241 |
| 図書費 | 24 | 28 |
| 委託計算費 | 498 | 520 |
| 営業雑経費 | 656 | 740 |
| 通信費 | 185 | 173 |
| 印刷費 | 276 | 348 |
| 協会費 | 66 | 68 |
| 諸会費 | 17 | 24 |
| その他 | 111 | 125 |
| 営業費用計 | 48,124 | 50,817 |
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 8,243 | 9,096 |
| 役員報酬 | 360 | 507 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 168 | 198 |
| 給料・手当 | 5,576 | 6,083 |
| 賞与 | 61 | 20 |
| 賞与引当金繰入額 | 2,077 | 2,286 |
| 交際費 | 99 | 99 |
| 寄付金 | 17 | 16 |
| 旅費交通費 | 412 | 455 |
| 租税公課 | 375 | 424 |
| 不動産賃借料 | 889 | 890 |
| 退職給付費用 | 390 | 355 |
| 退職金 | 20 | 24 |
| 固定資産減価償却費 | 192 | 152 |
| 福利費 | 959 | 974 |
| 諸経費 | 2,791 | 3,175 |
| 一般管理費計 | 14,394 | 15,664 |
| 営業利益 | 6,380 | 9,526 |

| | (単位：百万円) | |
|--|-------------------------------|-------------------------------|
| | 第58期 | 第59期 |
| | (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |

| | | | | |
|----------------|---|-------|---|--------|
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 19 | | 26 |
| 受取配当金 | 1 | 1,644 | 1 | 1,120 |
| 有価証券償還益 | | - | | 1 |
| 時効成立分配金・償還金 | | 22 | | 1 |
| 為替差益 | | 177 | | 79 |
| その他 | | 36 | | 41 |
| 営業外収益合計 | | 1,899 | | 1,272 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | 1 | 223 | 1 | 223 |
| 有価証券償還損 | | 7 | | - |
| デリバティブ費用 | 1 | 146 | 1 | 295 |
| 時効成立後支払分配金・償還金 | | 2 | | 0 |
| 支払源泉所得税 | | 155 | | - |
| 長期差入保証金償却額 | | - | | 212 |
| その他 | | 73 | | 34 |
| 営業外費用合計 | | 608 | | 767 |
| 経常利益 | | 7,670 | | 10,030 |
| 特別利益 | | | | |
| 投資有価証券売却益 | | 174 | | 199 |
| 特別利益合計 | | 174 | | 199 |
| 特別損失 | | | | |
| 投資有価証券売却損 | | 120 | | 133 |
| 固定資産処分損 | | 13 | | 7 |
| 役員退職一時金 | | - | | 117 |
| 損害賠償損失 | | - | | 81 |
| 特別損失合計 | | 134 | | 340 |
| 税引前当期純利益 | | 7,710 | | 9,890 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 2,137 | | 3,217 |
| 過年度法人税等 | 2 | 115 | | - |
| 法人税等調整額 | | 104 | | 307 |
| 法人税等合計 | | 2,147 | | 2,910 |
| 当期純利益 | | 5,562 | | 6,979 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

第58期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | | |
|---------|--------|-------|---------|---------------------|---------|------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | 株主資本合計 |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 29,948 | 29,948 | 502 | 52,028 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,495 | 1,495 | | 1,495 |
| 当期純利益 | | | | 5,562 | 5,562 | | 5,562 |
| 自己株式の取得 | | | | | | 170 | 170 |

| | | | | | | | |
|-------------------------|--------|-------|-------|--------|--------|-----|--------|
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | 4,067 | 4,067 | 170 | 3,897 |
| 当期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 34,015 | 34,015 | 672 | 55,926 |

| | 評価・換算差額等 | | | 純資産 合計 |
|-------------------------|----------------------|-------------|----------------|-----------|
| | その他 有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ 損益 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 151 | 258 | 410 | 52,438 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,495 |
| 当期純利益 | | | | 5,562 |
| 自己株式の取得 | | | | 170 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 130 | 7 | 138 | 138 |
| 当期変動額合計 | 130 | 7 | 138 | 4,036 |
| 当期末残高 | 282 | 266 | 548 | 56,475 |

第59期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

| | 株主資本 | | | | | | 株主資本 合計 |
|-------------------------|--------|-----------|-------------|-----------------------------|-------------|------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | |
| | | 資本 準備金 | 資本剰余 金合計 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益剰余金 合計 | | |
| 当期首残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 34,015 | 34,015 | 672 | 55,926 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,036 | 1,036 | | 1,036 |
| 当期純利益 | | | | 6,979 | 6,979 | | 6,979 |
| 自己株式の取得 | | | | | | 113 | 113 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | | | | 5,943 | 5,943 | 113 | 5,830 |
| 当期末残高 | 17,363 | 5,220 | 5,220 | 39,959 | 39,959 | 786 | 61,756 |

| | 評価・換算差額等 | | | 純資産 合計 |
|-------------------------|--------------------------|-------------|----------------|-----------|
| | その他 有価証券 評価差額 金 | 繰延ヘッジ 損益 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 282 | 266 | 548 | 56,475 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | 1,036 |
| 当期純利益 | | | | 6,979 |
| 自己株式の取得 | | | | 113 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 125 | 80 | 206 | 206 |
| 当期変動額合計 | 125 | 80 | 206 | 6,036 |

| | | | | |
|-------|-----|-----|-----|--------|
| 当期末残高 | 408 | 346 | 754 | 62,511 |
|-------|-----|-----|-----|--------|

[注記事項]

(重要な会計方針)

| 項目 | 第59期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-----------------|--|
| 1 資産の評価基準及び評価方法 | <p>(1) 有価証券 子会社株式及び関連会社株式 総平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、総平均法により算定) 時価のないもの 総平均法による原価法</p> <p>(2) 金銭の信託 時価法</p> <p>(3) デリバティブ 時価法</p> |
| 2 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産 定率法により償却しております。ただし、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～15年 器具備品 5年～20年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法により償却しております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> |
| 3 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払に充てるため、支払見込額に基づき、当事業年度の負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。 数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> |

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>4 ヘッジ会計の方法</p> | <p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段は為替予約、ヘッジ対象は投資有価証券であります。</p> <p>(3) ヘッジ方針 ヘッジ取引規程等に基づき、ヘッジ対象に係る為替変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間における相場変動によるヘッジ手段及びヘッジ対象資産に係る損益の累計を比較し有効性を評価しております。</p> |
| <p>5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> | <p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。</p> |

(貸借対照表関係)

| <p>第58期 (平成29年3月31日)</p> | <p>第59期 (平成30年3月31日)</p> |
|--|--|
| <p>1 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 1,222百万円</p> <p>器具備品 603百万円</p> | <p>1 有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>建物 1,260百万円</p> <p>器具備品 612百万円</p> |
| <p>2 信託資産</p> <p>流動資産のその他のうち30百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。</p> | <p>2 信託資産</p> <p>流動資産のその他のうち3,030百万円は、「直販顧客分別金信託契約」により、野村信託銀行株式会社に信託しております。</p> |
| <p>3 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。</p> <p>(流動資産)</p> <p>現金・預金 3,243百万円</p> <p>金銭の信託 152百万円</p> <p>未収収益 619百万円</p> <p>その他 20百万円</p> <p>(流動負債)</p> <p>預り金 177百万円</p> <p>未払手数料 144百万円</p> <p>未払費用 251百万円</p> <p>その他 61百万円</p> | <p>3 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。</p> <p>(流動資産)</p> <p>現金・預金 3,189百万円</p> <p>未収収益 592百万円</p> <p>その他 345百万円</p> <p>(流動負債)</p> <p>預り金 419百万円</p> <p>未払手数料 376百万円</p> <p>未払費用 677百万円</p> |
| <p>4 消費税等の取扱い</p> <p>仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。</p> | <p>4 消費税等の取扱い</p> <p>仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。</p> |
| <p>5 保証債務</p> <p>当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務587百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソン タワー アソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務546百万円に対して保証を行っております。</p> | <p>5 保証債務</p> <p>当社は、Nikko Asset Management Europe Ltd がロンドン ウォール リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務553百万円に対して保証を行っております。また当社は、Nikko Asset Management Americas, Inc. がマディソン タワー アソシエイツ リミテッド パートナーシップに支払うオフィス賃借料等の債務103百万円に対して保証を行っております。</p> |

(損益計算書関係)

| <p>第58期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)</p> | <p>第59期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)</p> |
|--|--|
|--|--|

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|--------|------|-------|---|-------|--------|----------|--------|------|--------|
| <p>1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">1,550百万円</td> </tr> <tr> <td>デリバティブ収益</td> <td style="text-align: right;">347百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息</td> <td style="text-align: right;">58百万円</td> </tr> </table> <p>2 過年度の取引に関する法人税等の追加費用計上額です。</p> | 受取配当金 | 1,550百万円 | デリバティブ収益 | 347百万円 | 支払利息 | 58百万円 | <p>1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">979百万円</td> </tr> <tr> <td>デリバティブ収益</td> <td style="text-align: right;">407百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息</td> <td style="text-align: right;">213百万円</td> </tr> </table> | 受取配当金 | 979百万円 | デリバティブ収益 | 407百万円 | 支払利息 | 213百万円 |
| 受取配当金 | 1,550百万円 | | | | | | | | | | | | |
| デリバティブ収益 | 347百万円 | | | | | | | | | | | | |
| 支払利息 | 58百万円 | | | | | | | | | | | | |
| 受取配当金 | 979百万円 | | | | | | | | | | | | |
| デリバティブ収益 | 407百万円 | | | | | | | | | | | | |
| 支払利息 | 213百万円 | | | | | | | | | | | | |

(株主資本等変動計算書関係)

第58期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-------------|---------|---------|-------------|
| 普通株式(株) | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 普通株式(株) | 814,100 | 305,000 | - | 1,119,100 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の目的となる株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当事業年度末残高(百万円) |
|--------------------|------------------|--------------------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| | | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 | |
| 平成21年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 1,762,200 | - | 72,600 | 1,689,600 | - |
| 平成21年度ストックオプション(2) | 普通株式 | 174,900 | - | - | 174,900 | - |
| 平成23年度ストックオプション(1) | 普通株式 | 4,738,800 | - | 1,848,000 | 2,890,800 | - |
| 平成28年度ストックオプション(1) | 普通株式 | - | 4,437,000 | 33,000 | 4,404,000 | - |
| 合計 | | 6,675,900 | 4,437,000 | 1,953,600 | 9,159,300 | - |

(注) 1 平成28年度ストックオプション(1)の増加は、新株予約権の発行によるものであります。

2 当事業年度の減少は、新株予約権の失効によるものであります。

3 平成21年度ストックオプション(1)1,689,600株、平成21年度ストックオプション(2)174,900株及び平成23年度ストックオプション(1)2,890,800株は、当事業年度末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。また、平成28年度ストックオプション(1)は、権利行使期間の初日が到来していません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------|-------|-------------|-------------|------------|------------|
| 平成28年5月30日取締役会 | 普通株式 | 1,495 | 7.62 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月22日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------|-------|-------|-------------|-------------|------------|------------|
| 平成29年5月25日取締役会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 1,036 | 5.29 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月22日 |

第59期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-------------|---------|---------|-------------|
| 普通株式（株） | 197,012,500 | - | - | 197,012,500 |

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 | 当事業年度増加 | 当事業年度減少 | 当事業年度末 |
|---------|-----------|---------|---------|-----------|
| 普通株式（株） | 1,119,100 | 182,600 | - | 1,301,700 |

3 新株予約権等に関する事項

| 新株予約権の内訳 | 新株予約権の 目的となる 株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | | 当事業年 度末残高 (百万円) |
|------------------------|--------------------------|--------------------|-------------|-------------|------------|-----------------------|
| | | 当事業年度 期首 | 当事業年度 増加 | 当事業年度 減少 | 当事業 年度末 | |
| 平成21年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 1,689,600 | - | 194,700 | 1,494,900 | - |
| 平成21年度 ストックオプション(2) | 普通株式 | 174,900 | - | 66,000 | 108,900 | - |
| 平成23年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 2,890,800 | - | 204,600 | 2,686,200 | - |
| 平成28年度 ストックオプション(1) | 普通株式 | 4,404,000 | - | 786,000 | 3,618,000 | - |
| 平成28年度 ストックオプション(2) | 普通株式 | - | 4,409,000 | 532,000 | 3,877,000 | - |
| 合計 | | 9,159,300 | 4,409,000 | 1,783,300 | 11,785,000 | - |

(注) 1 平成28年度ストックオプション(2)の増加は、新株予約権の発行によるものであります。

2 当事業年度の減少は、新株予約権の失効によるものであります。

3 平成21年度ストックオプション(1)1,494,900株、平成21年度ストックオプション(2)108,900株及び平成23年度ストックオプション(1)2,686,200株は、当事業年度末現在、権利行使期間の初日が到来しておりますが、他の条件が満たされていないため新株予約権を行使することができません。また、平成28年度ストックオプション(1)及び平成28年度ストックオプション(2)は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成29年5月25日 取締役会 | 普通株式 | 1,036 | 5.29 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月22日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成30年5月31日 取締役会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 1,640 | 8.38 | 平成30年3月31日 | 平成30年6月23日 |

(リース取引関係)

| 第58期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 第59期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| オペレーティング・リース取引 | オペレーティング・リース取引 |

| 解約不能のものに係る未経過リース料 | | 解約不能のものに係る未経過リース料 | |
|-------------------|----------|-------------------|----------|
| 1年内 | 865百万円 | 1年内 | 866百万円 |
| 1年超 | 1,787百万円 | 1年超 | 923百万円 |
| 合計 | 2,653百万円 | 合計 | 1,790百万円 |

(金融商品関係)

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を有価証券及び投資有価証券として保有しております。当社が行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託に係る将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、有価証券及び投資有価証券保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

また、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金に関しては10数行に分散して預入れしておりますが、これら金融機関の破綻及び債務不履行等による信用リスクに晒されており、また一部外貨建て預金を保有しているため為替変動リスクにも晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収収益に関しては、それらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているため、仮に信託銀行が破綻又は債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されます。有価証券及び投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシードマネーの投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスクや信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されておりますが、それらの一部については為替予約、株価指数先物等のデリバティブ取引により、リスクをヘッジしております。なお、為替変動リスクに係るヘッジについてはヘッジ会計(繰延ヘッジ)を適用しております。デリバティブ取引は、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法等については、前述の「重要な会計方針」4「ヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

営業債務である未払金(未払手数料)、未払費用に関しては、すべてが1年以内の支払期日であります。未払金(未払手数料)については、債権(未収委託者報酬)を資金回収した後に、販売会社へ当該債務を支払うフローとなっているため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。また未払費用のうち運用再委託先への顧問料支払に係るものについてもほとんどのものが、未払金同様のフローのため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。それ以外の営業費用及び一般管理費に係る未払費用に関しては、流動性リスクに晒されており、一部は外貨建て債務があるため、為替の変動リスクにも晒されております。

外貨建ての関係会社短期借入金に関しましては、為替変動リスクに晒されておりますが、為替予約によりリスクをヘッジしております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、預金の預入れやデリバティブ取引を行う金融機関の選定に関しては、相手方の財政状態及び経営成績、又は必要に応じて格付等を考慮した上で決定しております。また既に取引が行われている相手方に関しても、定期的に継続したモニタリングを行うことで、相手方の財務状況の悪化等による信用リスクを早期に把握することで、リスクの軽減を図っております。

市場リスク(為替や価格等の変動リスク)の管理

当社は、原則、有価証券及び投資有価証券以外の為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。また、有価証券及び投資有価証券に関しては、一部について、為替変動リスクや価格変動リスクを回避する目的でデリバティブ取引を行っております。毎月末にそれぞれの時価を算出し、評価損益(ヘッジ対象の有価証券及び投資有価証券は、ヘッジ損益考慮後の評価損

益)を把握しております。また、市場の変動等に基づき、今後の一定期間において特定の確率で、金融商品に生じ得る損失額の推計値を把握するため、バリュ・・アット・リスクを用いた市場リスク管理を週次ベースで実施しております。さらに、外貨建ての関係会社短期借入金に関しては、為替変動リスクを回避する目的でデリバティブ取引を行っております。

流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性(最低限必要な運転資金)を状況に応じて見直し・維持すること等により、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成29年3月31日(当事業年度の決算日)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位:百万円)

| | 貸借対照表 計上額(1) | 時価(1) | 差額 |
|-------------------------------------|-----------------|---------|----|
| (1) 現金・預金 | 16,761 | 16,761 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 10,757 | 10,757 | - |
| (3) 未収収益 | 2,799 | 2,799 | - |
| (4) 関係会社短期貸付金 | 962 | 962 | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券 | 11,777 | 11,777 | - |
| (6) 未払金 | (4,043) | (4,043) | - |
| (7) 未払費用 | (4,229) | (4,229) | - |
| (8) デリバティブ取引(2) ヘッジ会計が適用されていないもの | 35 | 35 | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | (1) | (1) | - |
| デリバティブ取引計 | 34 | 34 | - |

(1)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収収益並びに(4) 関係会社短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(6) 未払金及び(7) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8) デリバティブ取引

(デリバティブ取引関係)注記を参照ください。なお、ヘッジ会計が適用されていないものうち75百万円は貸借対照表上流動資産のその他に含まれ、39百万円は流動負債のその他に含まれております。また、ヘッジ会計が適用されているものうち20百万円は貸借対照表上流動資産のその他に含まれ、22百万円は流動負債のその他に含まれております。

2 非上場株式等(貸借対照表計上額16百万円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及

び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

- 3 子会社株式（貸借対照表計上額20,310百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額2,892百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。

4 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----------------------|--------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 16,761 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 10,757 | - | - | - |
| 未収収益 | 2,799 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 投資信託 | 10 | 616 | 907 | 735 |
| 合計 | 30,328 | 616 | 907 | 735 |

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を有価証券及び投資有価証券として保有しております。当社が行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託に係る将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、有価証券及び投資有価証券保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

また、資金運用については短期的な預金等に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金に関しては10数行に分散して預入れしておりますが、これら金融機関の破綻及び債務不履行等による信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収収益に関しては、それらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているため、仮に信託銀行が破綻又は債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されます。有価証券及び投資有価証券は、主に自己で設定した投資信託へのシ・ドマネ・の投入によるものであります。これら投資信託の投資対象は株式、公社債等のため、価格変動リスクや信用リスク、流動性リスク、為替変動リスクに晒されておりますが、それらの一部については為替予約、株価指数先物等のデリバティブ取引により、リスクをヘッジしております。なお、為替変動リスクに係るヘッジについてはヘッジ会計（繰延ヘッジ）を適用しております。デリバティブ取引は、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法等については、前述の「重要な会計方針」4「ヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

営業債務である未払金（未払手数料）、未払費用に関しては、すべてが1年以内の支払期日であります。未払金（未払手数料）については、債権（未収委託者報酬）を資金回収した後に、販売会社へ当該債務を支払うフローとなっているため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。また未払費用のうち運用再委託先への顧問料支払に係るものについてもほとんどのものが、未払金同様のフローのため、流動性リスクに晒されることは無いと考えております。それ以外の営業費用及び一般管理費に係る未払費用に関しては、流動性リスクに晒されており、一部は外貨建て債務があるため、為替の変動リスクにも晒されております。

外貨建ての関係会社短期借入金に関しましては、為替変動リスクに晒されておりますが、為替予約によりリスクをヘッジしております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、預金の預入れやデリバティブ取引を行う金融機関の選定に関しては、相手方の財政状態及び経営成績、又は必要に応じて格付等を考慮した上で決定しております。また既に取引が行われている相手方に関しても、定期的に継続したモニタリングを行うことで、相手方の財務状況の悪化等による信用リスクを早期に把握することで、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（為替や価格等の変動リスク）の管理

当社は、原則、有価証券及び投資有価証券以外の為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。また、有価証券及び投資有価証券に関しては、一部について、為替変動リスクや価格変動リスクを回避する目的でデリバティブ取引を行っております。毎月末にそれぞれの時価を算出し、評価損益（ヘッジ対象の有価証券及び投資有価証券は、ヘッジ損益考慮後の評価損益）を把握しております。また、市場の変動等に基づき、今後の一定期間において特定の確率で、金融商品に生じ得る損失額の推計値を把握するため、バリュ・アット・リスクを用いた市場リスク管理を週次ベースで実施しております。さらに、外貨建ての関係会社短期借入金に関しては、為替変動リスクを回避する目的でデリバティブ取引を行っております。

流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持すること等により、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（単位：百万円）

| | 貸借対照表 計上額(1) | 時価(1) | 差額 |
|-----------------------------|------------------|---------|----|
| (1) 現金・預金 | 14,024 | 14,024 | - |
| (2) 未収委託者報酬 | 15,873 | 15,873 | - |
| (3) 未収収益 | 3,174 | 3,174 | - |
| (4) 関係会社短期貸付金 | 1,128 | 1,128 | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券 | 14,106 | 14,106 | - |
| (6) 未払金 | (5,874) | (5,874) | - |
| (7) 未払費用 | (4,634) | (4,634) | - |
| (8) デリバティブ取引(2) | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | (14) | (14) | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | 336 | 336 | - |
| デリバティブ取引計 | 321 | 321 | - |

(1)負債に計上されているものについては、()で示しております。

(2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収収益並びに(4) 関係会社短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

投資信託は基準価額によっております。

(6) 未払金及び(7) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっ

ております。

(8) デリバティブ取引

（デリバティブ取引関係）注記を参照ください。なお、ヘッジ会計が適用されていないものうち8百万円は貸借対照表上流動資産のその他に含まれ、23百万円は流動負債のその他に含まれております。また、ヘッジ会計が適用されているものは貸借対照表上流動資産のその他に含まれております。

- 2 非上場株式等（貸借対照表計上額16百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。
- 3 子会社株式（貸借対照表計上額22,876百万円）及び関連会社株式（貸借対照表計上額2,892百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の表には含めておりません。

4 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----------------------|--------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 14,024 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 15,873 | - | - | - |
| 未収収益 | 3,174 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 投資信託 | 19 | 616 | 1,743 | 545 |
| 合計 | 33,090 | 616 | 1,743 | 545 |

（有価証券関係）

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 子会社株式及び関連会社株式

（単位：百万円）

| | 貸借対照表計上額 |
|--------|----------|
| 子会社株式 | 20,310 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

(注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

（単位：百万円）

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|------------------------------|------|----------|--------|-----|
| 貸借対照表計上額 が取得原価を超え るもの | 投資信託 | 6,299 | 5,590 | 708 |
| | 小計 | 6,299 | 5,590 | 708 |
| 貸借対照表計上額 が取得原価を超え ないもの | 投資信託 | 5,478 | 5,780 | 302 |
| | 小計 | 5,478 | 5,780 | 302 |
| 合計 | | 11,777 | 11,370 | 406 |

- (注) 1 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当事業年度については、該当ございません。
- 2 非上場株式等(貸借対照表計上額 16百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

| 種類 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|------|-------|---------|---------|
| 投資信託 | 3,198 | 174 | 120 |
| 合計 | 3,198 | 174 | 120 |

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

| | 貸借対照表計上額 |
|--------|----------|
| 子会社株式 | 22,876 |
| 関連会社株式 | 2,892 |

- (注) 子会社株式及び関連会社株式は市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価を記載しておりません。

2 その他有価証券

(単位：百万円)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|--------------------------|------|----------|--------|-------|
| 貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの | 投資信託 | 8,544 | 7,535 | 1,008 |
| | 小計 | 8,544 | 7,535 | 1,008 |
| 貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの | 投資信託 | 5,561 | 5,982 | 420 |
| | 小計 | 5,561 | 5,982 | 420 |
| 合計 | | 14,106 | 13,518 | 588 |

- (注) 1 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。当事業年度については、該当ございません。
- 2 非上場株式等(貸借対照表計上額 16百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

| 種類 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|------|-------|---------|---------|
| 投資信託 | 2,792 | 199 | 133 |
| 合計 | 2,792 | 199 | 133 |

(デリバティブ取引関係)

第58期(平成29年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 株式関連

| 種類 | | 契約額等 (百万円) | 契約額等の うち1年超 (百万円) | 時価 (百万円) | 評価損益 (百万円) |
|------|----------|---------------|-------------------------|-------------|---------------|
| 市場取引 | 株価指数先物取引 | | | | |
| | 売建 | 1,729 | - | 35 | 35 |
| | 買建 | - | - | - | - |
| 合計 | | 1,729 | - | 35 | 35 |

(注) 1 上記取引については時価評価を行い、評価損益は損益計算書に計上しております。

2 時価の算定方法

金融商品取引所が定める清算指数によっております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

| ヘッジ 会計の方法 | デリバティブ取引 の種類等 | 主なヘッジ 対象 | 契約額等 (百万円) | 契約額等の うち1年超 (百万円) | 時価 (百万円) |
|--------------|------------------|-------------|---------------|-------------------------|-------------|
| 原則的 処理方法 | 為替予約取引 | | | | |
| | 売建 | | | | |
| | 米ドル | 投資 | 2,993 | - | 11 |
| | 豪ドル | 有価証券 | 77 | - | 2 |
| | シンガポールドル | | 1,639 | - | 20 |
| | 香港ドル | | 205 | - | 2 |
| | 人民元 | | 1,946 | - | 6 |
| | ユーロ | | 57 | - | 0 |
| 合計 | | | 6,920 | - | 1 |

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

第59期(平成30年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 株式関連

| 種類 | | 契約額等 (百万円) | 契約額等の うち1年超 (百万円) | 時価 (百万円) | 評価損益 (百万円) |
|------|----------|---------------|-------------------------|-------------|---------------|
| 市場取引 | 株価指数先物取引 | | | | |
| | 売建 | 2,422 | - | 14 | 14 |
| | 買建 | - | - | - | - |
| 合計 | | 2,422 | - | 14 | 14 |

(注) 1 上記取引については時価評価を行い、評価損益は損益計算書に計上しております。

2 時価の算定方法

金融商品取引所が定める清算指数によっております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

| ヘッジ 会計の方法 | デリバティブ取引 の種類等 | 主なヘッジ 対象 | 契約額等 (百万円) | 契約額等の うち1年超 (百万円) | 時価 (百万円) |
|--------------|------------------|-------------|---------------|-------------------------|-------------|
| 原則的 処理方法 | 為替予約取引 売建 | 投資 有価証券 | | | |
| | 米ドル | | 4,447 | - | 196 |
| | 豪ドル | | 109 | - | 10 |
| | シンガポールドル | | 1,783 | - | 65 |
| | 香港ドル | | 541 | - | 25 |
| | 人民元 | | 2,156 | - | 32 |
| | ユーロ | | 154 | - | 6 |
| | 合計 | | 9,192 | - | 336 |

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(持分法損益等)

| 第58期 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日) | 第59期 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日) |
|--|--|
| 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 (単位：百万円) | 関連会社に持分法を適用した場合の投資損益等 (単位：百万円) |
| (1) 関連会社に対する投資の金額 3,030 | (1) 関連会社に対する投資の金額 3,008 |
| (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 9,455 | (2) 持分法を適用した場合の投資の金額 10,409 |
| (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 2,092 | (3) 持分法を適用した場合の投資利益の金額 1,827 |

(退職給付関係)

第58期(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型企業年金制度及びキャッシュバランスプラン型退職金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | (百万円) |
|--------------|-------|
| 退職給付債務の期首残高 | 1,299 |
| 勤務費用 | 150 |
| 利息費用 | 2 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 190 |
| 退職給付の支払額 | 72 |
| 退職給付債務の期末残高 | 1,190 |

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

| | |
|-------------|-------|
| 退職給付債務 | 1,190 |
| 未積立退職給付債務 | 1,190 |
| 未認識数理計算上の差異 | 69 |

| | |
|-----------------|-------|
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,259 |
| 退職給付引当金 | 1,259 |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,259 |

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | |
|-----------------|-----|
| 勤務費用 | 150 |
| 利息費用 | 2 |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 23 |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 177 |

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

| | |
|-----|------|
| 割引率 | 0.2% |
|-----|------|

3 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、213百万円でありました。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型企業年金制度及びキャッシュバランスプラン型退職金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| (百万円) | |
|--------------|-------|
| 退職給付債務の期首残高 | 1,190 |
| 勤務費用 | 130 |
| 利息費用 | 2 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 66 |
| 退職給付の支払額 | 76 |
| 退職給付債務の期末残高 | 1,313 |

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

| | |
|-----------------|-------|
| 退職給付債務 | 1,313 |
| 未積立退職給付債務 | 1,313 |
| 未認識数理計算上の差異 | 2 |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,316 |

| | |
|-----------------|-------|
| 退職給付引当金 | 1,316 |
| 貸借対照表に計上された負債の額 | 1,316 |

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | |
|-----------------|-----|
| 勤務費用 | 130 |
| 利息費用 | 2 |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 0 |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 132 |

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 0.2%

3 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、222百万円でありました。

(ストックオプション等関係)

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 スtockオプション(新株予約権)の内容、規模及びその変動状況

(1) スtockオプション(新株予約権)の内容

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|------------------------------|---|--------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 271名 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 48名 |
| 株式の種類別のストック オプションの付与数 (注) | 普通株式 19,724,100株 | 普通株式 1,702,800株 |
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日(以下「権利行使 可能初日」といいます。)、当該権 利行使可能初日から1年経過した日 の翌日、及び当該権利行使可能初日 から2年経過した日の翌日まで原則 として従業員等の地位にあることを 要し、それぞれ保有する新株予約権 の2分の1、4分の1、4分の1ず つ権利確定する。ただし、本新株予 約権の行使時において、当社が株式 公開していることを要する。 | 同左 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から 2年を経過した日まで | 同左 |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から 平成32年1月21日まで | 同左 |

| | 平成23年度ストックオプション(1) | 平成28年度ストックオプション(1) |
|------------------------------|---|---|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 186名 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 16名 |
| 株式の種類別のストック オプションの付与数 (注) | 普通株式 6,101,700株 | 普通株式 4,437,000株 |
| 付与日 | 平成23年10月7日 | 平成28年7月15日 |
| 権利確定条件 | 平成25年10月7日(以下「権利行使 可能初日」といいます。)、当該権 利行使可能初日から1年経過した日 の翌日、及び当該権利行使可能初日 から2年経過した日の翌日まで原則 として従業員等の地位にあることを 要し、それぞれ保有する新株予約権 の2分の1、4分の1、4分の1ず つ権利確定する。ただし、本新株予 約権の行使時において、当社が株式 公開していることを要する。 | 平成30年7月15日(以下「権利行使可 能初日」といいます。)、当該権利行 使可能初日から1年経過した日の翌 日、及び当該権利行使可能初日から2 年経過した日の翌日まで原則として従 業員等の地位にあることを要し、それ ぞれ保有する新株予約権の3分の1、 3分の1、3分の1ずつ権利確定す る。ただし、本新株予約権の行使時 において、当社が株式公開しているこ とを要する。 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から 2年を経過した日まで | 付与日から、権利行使可能初日から2 年を経過した日まで |
| 権利行使期間 | 平成25年10月7日から 平成33年10月6日まで | 平成30年7月15日から 平成38年7月31日まで |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストックオプション(新株予約権)の規模及びその変動状況

ストックオプション（新株予約権）の数

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 1,762,200 | 174,900 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 72,600 | 0 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 1,689,600 | 174,900 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| | 平成23年度ストックオプション(1) | 平成28年度ストックオプション(1) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成23年10月7日 | 平成28年7月15日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 4,738,800 | - |
| 付与 | 0 | 4,437,000 |
| 失効 | 1,848,000 | 33,000 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 2,890,800 | 4,404,000 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

(注) 株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 625 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注)1 | 0 | 0 |

| | 平成23年度ストックオプション(1) | 平成28年度ストックオプション(1) |
|-----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成23年10月7日 | 平成28年7月15日 |
| 権利行使価格(円) | 737 (注)3 | 558 |

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| 付与日における公正な評価単価 (円) (注) 1 | 0 | 0 |
|-----------------------------|---|---|

- (注) 1 公正な評価単価に代え、本源的価値(取引事例比準法等による評価額と行使価格との差額)の見積りによっております。
- 2 ストックオプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の本源的価値の合計額
当事業年度末における本源的価値の合計額 - 百万円
- 3 株式公開価格が737円(割当日後、株式の分割又は併合が行われたときは、当該金額は、当該株式の分割又は併合の内容を適切に反映するよう調整される。)を上回る金額に定められた場合には、株式公開日において、権利行使価格は株式公開価格と同一の金額に調整されます。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 ストックオプション(新株予約権)の内容、規模及びその変動状況

(1) ストックオプション(新株予約権)の内容

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|------------------------------|---|--------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 271名 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 48名 |
| 株式の種類別のストック オプションの付与数 (注) | 普通株式 19,724,100株 | 普通株式 1,702,800株 |
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定条件 | 平成24年1月22日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 同左 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 同左 |
| 権利行使期間 | 平成24年1月22日から 平成32年1月21日まで | 同左 |

| | 平成23年度ストックオプション(1) | 平成28年度ストックオプション(1) |
|------------------------------|---|---|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 186名 | 当社及び関係会社の 取締役・従業員 16名 |
| 株式の種類別のストック オプションの付与数 (注) | 普通株式 6,101,700株 | 普通株式 4,437,000株 |
| 付与日 | 平成23年10月7日 | 平成28年7月15日 |
| 権利確定条件 | 平成25年10月7日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の2分の1、4分の1、4分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | 平成30年7月15日(以下「権利行使可能初日」といいます。)、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の3分の1、3分の1、3分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで |
| 権利行使期間 | 平成25年10月7日から 平成33年10月6日まで | 平成30年7月15日から 平成38年7月31日まで |

| | |
|--|--------------------|
| | 平成28年度ストックオプション(2) |
|--|--------------------|

| | | |
|-------------------------|---|------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び関係会社の取締役・従業員 | 31名 |
| 株式の種類別のストックオプションの付与数（注） | 普通株式 | 4,409,000株 |
| 付与日 | 平成29年4月27日 | |
| 権利確定条件 | 平成31年4月27日（以下「権利行使可能初日」といいます。）、当該権利行使可能初日から1年経過した日の翌日、及び当該権利行使可能初日から2年経過した日の翌日まで原則として従業員等の地位にあることを要し、それぞれ保有する新株予約権の3分の1、3分の1、3分の1ずつ権利確定する。ただし、本新株予約権の行使時において、当社が株式公開していることを要する。 | |
| 対象勤務期間 | 付与日から、権利行使可能初日から2年を経過した日まで | |
| 権利行使期間 | 平成31年4月27日から 平成39年4月30日まで | |

（注） 株式数に換算して記載しております。

（2）ストックオプション（新株予約権）の規模及びその変動状況

ストックオプション（新株予約権）の数

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 1,689,600 | 174,900 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 194,700 | 66,000 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 1,494,900 | 108,900 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| | 平成23年度ストックオプション(1) | 平成28年度ストックオプション(1) |
|----------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成23年10月7日 | 平成28年7月15日 |
| 権利確定前(株) | | |
| 期首 | 2,890,800 | 4,404,000 |
| 付与 | 0 | 0 |
| 失効 | 204,600 | 786,000 |
| 権利確定 | 0 | 0 |
| 権利未確定残 | 2,686,200 | 3,618,000 |
| 権利確定後(株) | | |
| 期首 | - | - |
| 権利確定 | - | - |

| | | |
|--------|---|---|
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 権利未行使残 | - | - |

| 平成28年度ストックオプション(2) | |
|--------------------|------------|
| 付与日 | 平成29年4月27日 |
| 権利確定前(株) | |
| 期首 | - |
| 付与 | 4,409,000 |
| 失効 | 532,000 |
| 権利確定 | 0 |
| 権利未確定残 | 3,877,000 |
| 権利確定後(株) | |
| 期首 | - |
| 権利確定 | - |
| 権利行使 | - |
| 失効 | - |
| 権利未行使残 | - |

(注) 株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成21年度ストックオプション(1) | 平成21年度ストックオプション(2) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成22年2月8日 | 平成22年8月20日 |
| 権利行使価格(円) | 625 | 625 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

| | 平成23年度ストックオプション(1) | 平成28年度ストックオプション(1) |
|-------------------------|--------------------|--------------------|
| 付与日 | 平成23年10月7日 | 平成28年7月15日 |
| 権利行使価格(円) | 737(注) 3 | 558 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 | 0 |

| 平成28年度ストックオプション(2) | |
|-------------------------|------------|
| 付与日 | 平成29年4月27日 |
| 権利行使価格(円) | 553 |
| 付与日における公正な評価単価(円) (注) 1 | 0 |

- (注) 1 公正な評価単価に代え、本源的価値(取引事例比準法等による評価額と行使価格との差額)の見積りによっております。
- 2 スtockオプションの単位当たりの本源的価値による算定を行った場合の本源的価値の合計額
当事業年度末における本源的価値の合計額 1,149百万円
- 3 株式公開価格が737円(割当日後、株式の分割又は併合が行われたときは、当該金額は、当該株式の分割又は併合の内容を適切に反映するように調整される。)を上回る金額に定められた場合には、株式公開日において、権利行使価格は株式公開価格と同一の金額に調整されます。

(税効果会計関係)

| 第58期 (平成29年3月31日) | | 第59期 (平成30年3月31日) | |
|----------------------|--|----------------------|---|
| 1 | 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳 (単位：百万円) | 1 | 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳 (単位：百万円) |
| | 繰延税金資産(流動) | | 繰延税金資産(流動) |
| | 賞与引当金 641 | | 賞与引当金 700 |
| | その他 224 | | その他 314 |
| | 小計 865 | | 小計 1,014 |
| | 繰延税金資産(固定) | | 繰延税金資産(固定) |
| | 投資有価証券評価損 96 | | 投資有価証券評価損 96 |
| | 関係会社株式評価損 1,430 | | 関係会社株式評価損 1,430 |
| | 退職給付引当金 385 | | 退職給付引当金 402 |
| | 固定資産減価償却費 119 | | 固定資産減価償却費 111 |
| | その他 63 | | その他 211 |
| | 小計 2,095 | | 小計 2,253 |
| | 繰延税金資産小計 2,961 | | 繰延税金資産小計 3,268 |
| | 評価性引当金 1,430 | | 評価性引当金 1,430 |
| | 繰延税金資産合計 1,530 | | 繰延税金資産合計 1,838 |
| | 繰延税金負債(流動) | | 繰延税金負債(流動) |
| | その他有価証券評価差額金 0 | | その他有価証券評価差額金 - |
| | 小計 0 | | 小計 - |
| | 繰延税金負債(固定) | | 繰延税金負債(固定) |
| | その他有価証券評価差額金 123 | | その他有価証券評価差額金 180 |
| | 繰延ヘッジ利益 117 | | 繰延ヘッジ利益 152 |
| | 小計 241 | | 小計 333 |
| | 繰延税金負債合計 242 | | 繰延税金負債合計 333 |
| | 繰延税金資産の純額 1,288 | | 繰延税金資産の純額 1,504 |
| 2 | 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | 2 | 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 |
| | 法定実効税率 30.9% (調整) | | 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。 |
| | 交際費等永久に損金に算入されない項目 0.6% | | |
| | 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 5.3% | | |
| | 過年度法人税等 1.5% | | |
| | 海外子会社の留保利益の影響額等 0.2% | | |
| | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 27.9% | | |

(関連当事者情報)

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

重要な該当事項はありません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金 | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|----|------------|-----|----------|-------|-------------------|-----------|-------|-----------|----|-----------|
| | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|--|---------|----------------------------|-------------|--------------|-------|-------------------------------|------------------------------------|----------------------------|------------------------|
| 子会社 | Nikko Asset Management International Limited | シンガポール国 | 312,000 (SGD 千) | アセットマネジメント業 | 直接 100.00 | 資金の貸付 | 資金の貸付 (シンガポールドル貨建) (注1) | 65 (SGD 800 千) (注2) | 関係会社 短期貸付 金 | 385 (SGD 4,800千) |
| | | | | | | | 貸付金利息 (シンガポールドル貨建) (注1) | 13 (SGD 177 千) | 未収収益 | 8 (SGD 105千) |
| | | | | | | | 資金の貸付 (円貨建) (注3) | 4,422 (注4) | 関係会社 短期貸付 金 | 577 |
| | | | | | | | 貸付金利息 (円貨建) (注3) | 3 | 未収収益 | 3 |
| | | | | | | | - | 増資の 引受 (注5) | 1,501 (SGD 20,000 千) | - |
| 子会社 | Nikko Asset Management Americas, Inc. | アメリカ合衆国 | 181,542 (USD 千) (注6) | アセットマネジメント業 | 間接 100.00 | 資金の借入 | 資金の借入 (米ドル貨建) (注7) | 5,549 (USD 50,000 千) (注8) | 関係会社 短期借入 金 | - |
| | | | | | | | 借入金利息 (米ドル貨建) (注7) | 48 (USD 453 千) | 未払費用 | - |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 融資枠SGD11,000千、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- 資金の貸付に係る取引金額65百万円 (SGD800千) の内訳は、貸付505百万円 (SGD6,600千) 及び返済439百万円 (SGD5,800千) であります。
- 融資枠5,000百万円、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- 資金の貸付に係る取引金額 4,422百万円の内訳は、貸付577百万円及び返済5,000百万円であります。
- Nikko Asset Management International Limitedの行った20,000,000株の新株発行増資を、1株につき1シンガポールドルで当社が引受けたものであります。
- Nikko Asset Management Americas, Inc.の「資本金」は、資本金と資本剰余金の合計額を記載しております。
- 融資枠USD50,000千、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- 資金の借入に係る取引金額 5,549百万円 (USD 50,000千) は、返済であります。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社 (東京証券取引所等に上場)

三井住友信託銀行株式会社 (非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当事業年度において、重要な関連会社は融通(ロントン)基金管理有限公司であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。なお、下記数値は平成28年12月31日に終了した年度の財務諸表を当日の直物為替相場で円貨に換算したものであります。

| | |
|-------|-----------|
| 資産合計 | 25,221百万円 |
| 負債合計 | 5,428百万円 |
| 純資産合計 | 19,792百万円 |

| | |
|----------|-----------|
| 営業収益 | 18,250百万円 |
| 税引前当期純利益 | 6,809百万円 |
| 当期純利益 | 4,680百万円 |

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社

重要な該当事項はありません。

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金 | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|--|---------|-----------------|--------------------------|-------------------|-----------|-----------------------|----------------------|-----------|------------------|
| 子会社 | Nikko Asset Management International Limited | シンガポール国 | 342,369 (SGD 千) | アセットマネジメント業 | 直接 100.00 | 資金の貸付 | 資金の貸付(シンガポールドル貸建)(注1) | 159 (SGD 2,000千)(注2) | 関係会社短期貸付金 | 550 (SGD 6,800千) |
| | | | | | | | 貸付金利息(シンガポールドル貸建)(注1) | 13 (SGD 162千) | 未収収益 | 8 (SGD 110千) |
| | | | | | | | 資金の貸付(円貸建)(注3) | - | 関係会社短期貸付金 | 577 |
| | | | | | | | 貸付金利息(円貸建)(注3) | 12 | 未収収益 | 3 |
| | | | | | | - | 増資の引受(注4) | 2,466 (SGD 30,369千) | - | - |
| 子会社 | 日本インスティテューショナル証券設立準備株式会社 | 日本 | 100 (百万円) | 金融商品取引業者として登録を受けるための準備会社 | 直接 100.00 | - | 増資の引受(注5) | 100 | - | - |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

- 融資枠SGD11,000千、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- 資金の貸付に係る取引金額159百万円(SGD2,000千)の内訳は、貸付159百万円(SGD2,000千)であります。
- 融資枠5,000百万円、返済期間1年間のリボルビング・ローンで、金利は市場金利を勘案して決定しております。
- Nikko Asset Management International Limitedの行った30,369,000株の新株発行増資を、1株につき1シンガポールドルで当社が引受けたものであります。
- 日本インスティテューショナル証券設立準備株式会社の行った2,000株の新株発行を、1株につき50千円で当社が引受けたものであります。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社(東京証券取引所等に上場)

三井住友信託銀行株式会社(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当事業年度において、重要な関連会社は融通(ロントン)基金管理有限公司であり、その要約財務情報は以下のとおりであります。なお、下記数値は平成29年12月31日に終了した年度の財務諸表を当日の直物為替相場で円貨に換算したものであります。

| | |
|-------|-----------|
| 資産合計 | 27,012百万円 |
| 負債合計 | 5,141百万円 |
| 純資産合計 | 21,871百万円 |

| | |
|----------|-----------|
| 営業収益 | 15,830百万円 |
| 税引前当期純利益 | 5,266百万円 |
| 当期純利益 | 3,594百万円 |

(セグメント情報等)

セグメント情報

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。

関連情報

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しておりません。

(2) 有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載しておりません。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービスはアセットマネジメント業として単一であるため、記載しておりません。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

国外に所在している有形固定資産が無いため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める単一の外部顧客が無いため、記載していません。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

第58期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

第59期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 項目 | 第58期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 第59期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|--------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 288円29銭 | 319円40銭 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 28円38銭 | 35円64銭 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権の残高はありますが、当社株式が非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので、希薄化効果を算定できないため記載していません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第58期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | 第59期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日) |
|-------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 当期純利益(百万円) | 5,562 | 6,979 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |

| | | |
|--|---|---|
| 普通株式に係る当期純利益(百万円) | 5,562 | 6,979 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 196,009 | 195,794 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要 | 平成21年度ストックオプション(1) 1,689,600株、平成21年度ストックオプション(2) 174,900株、平成23年度ストックオプション(1) 2,890,800株、平成28年度ストックオプション(1) 4,404,000株 | 平成21年度ストックオプション(1) 1,494,900株、平成21年度ストックオプション(2) 108,900株、平成23年度ストックオプション(1) 2,686,200株、平成28年度ストックオプション(1) 3,618,000株、平成28年度ストックオプション(2) 3,877,000株 |

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 第58期 (平成29年3月31日) | 第59期 (平成30年3月31日) |
|---------------------------------|----------------------|----------------------|
| 純資産の部の合計額(百万円) | 56,475 | 62,511 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る期末の純資産額(百万円) | 56,475 | 62,511 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株) | 195,893 | 195,711 |

(重要な後発事象)

新株予約権(ストックオプション)の付与

当社は平成30年3月15日付の臨時株主総会及び平成30年3月20日開催の取締役会の決議に基づき、平成30年4月27日にストックオプションとして新株予約権を当社、当社子会社の取締役及び従業員36名に付与いたしました。

| | |
|---------------------|--------------------------|
| 新株予約権の数 | 4,422個 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類及び数 | 当社普通株式 4,422,000株 |
| 新株予約権の発行価額 | 無償 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 | 1株当たり金694円 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成32年4月27日から平成40年4月30日まで |

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)、(5)において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行なうこと。

- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。
- (5) 上記(3)、(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1) 定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される訴訟事件などは発生していません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

| 名 称 | 資本金の額 (2018年3月末現在) | 事業の内容 |
|--------------|-----------------------|---|
| 三井住友信託銀行株式会社 | 342,037百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。 |

<再信託受託会社の概要>

名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額 : 51,000百万円(2018年3月末現在)

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託者から再信託受託者(日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

(2) 販売会社

| 名 称 | 資本金の額 (2018年3月末現在) | 事業の内容 |
|------------------|-----------------------|-------------------------------|
| いちよし証券株式会社 | 14,577百万円 | 金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| S M B C 日興証券株式会社 | 10,000百万円 | |
| 株式会社 S B I 証券 | 48,323百万円 | |
| 岡三オンライン証券株式会社 1 | 2,500百万円 | |
| カブドットコム証券株式会社 | 7,196百万円 | |
| 大和証券株式会社 | 100,000百万円 | |
| 高木証券株式会社 | 11,069百万円 | |
| 百五証券株式会社 | 3,000百万円 | |
| 松井証券株式会社 | 11,945百万円 | |
| マネックス証券株式会社 | 12,200百万円 | |
| 楽天証券株式会社 | 7,495百万円 | |
| 株式会社イオン銀行 | 51,250百万円 | |
| 株式会社京葉銀行 | 49,759百万円 | |

| | | |
|---------------|-----------------------|---|
| 株式会社滋賀銀行 | 33,076百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営んでいます。 |
| 株式会社第四銀行 | 32,776百万円 | |
| 株式会社トマト銀行 | 17,810百万円 | |
| 株式会社富山銀行 | 6,730百万円 | |
| 株式会社南都銀行 | 37,924百万円 | |
| 株式会社広島銀行 | 54,573百万円 | |
| 株式会社みずほ銀行 | 1,404,065百万円 | |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 1,711,958百万円 | |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 342,037百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 324,279百万円 | |
| 株式会社りそな銀行 | 279,928百万円 | |
| 住友生命保険相互会社 | 100,000百万円 (基金の総額) | 保険業法に基づき生命保険業を営んでいます。 |
| 第一生命保険株式会社 | 60,000百万円 | |
| 日本生命保険相互会社 | 150,000百万円 (基金の総額) | |
| 富国生命保険相互会社 | 10,000百万円 (基金の総額) | |
| 信金中央金庫 | 690,998百万円 (出資の総額) | 信用金庫法に基づき信用金庫の事業を営んでいます。 |
| 全国信用協同組合連合会 | 67,275百万円 (出資の総額) | 協同組合による金融事業に関する法律に基づき金融事業を営んでいます。 |

1 2018年10月22日より取扱開始予定です。

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

ファンドの信託財産に属する有価証券の管理・計算事務などを行ないます。

(2) 販売会社

日本におけるファンドの募集、解約、収益分配金および償還金の取扱いなどを行ないます。

3【資本関係】

(1) 受託会社

三井住友信託銀行株式会社は、日興アセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の91.29%を保有しております。(2018年3月末現在)

(2) 販売会社

三井住友信託銀行株式会社は、日興アセットマネジメント株式会社の発行済株式総数の91.29%を保有しております。(2018年3月末現在)

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

| 提出年月日 | 提出書類 |
|-------------|---------------|
| 2017年 7月20日 | 有価証券届出書の訂正届出書 |
| 2017年 9月26日 | 有価証券届出書 |
| 2017年 9月26日 | 有価証券報告書 |

| | |
|-------------|---------------|
| 2017年10月 2日 | 有価証券届出書の訂正届出書 |
| 2018年 3月26日 | 有価証券届出書の訂正届出書 |
| 2018年 3月26日 | 半期報告書 |

独立監査人の監査報告書

平成30年6月15日

日興アセットマネジメント株式会社
取締役会御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 羽 太 典 明
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 竹 内 知 明
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている日興アセットマネジメント株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日興アセットマネジメント株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年7月25日

日興アセットマネジメント株式会社

取締役会御中

P w Cあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 辻村 和之
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている年金積立「J」グロースの平成29年6月27日から平成30年6月25日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、年金積立「J」グロースの平成30年6月25日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

日興アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。